

2027 大学院案内

学習院大学大学院

Gakushuin University Graduate School



CONTENTS

学長からのメッセージ	1
法学研究科	2
政治学研究科	4
経済学研究科	6
経営学研究科	8
人文科学研究科	
哲学専攻	10
美術史学専攻	12
史学専攻	14
日本語日本文学専攻	16
英語英米文学専攻	18
ドイツ語ドイツ文学専攻	20
フランス文学専攻	22
心理学専攻	24
臨床心理学専攻	26
教育学専攻	28
アーカイブズ学専攻	30
身体表象文化学専攻	32
自然科学研究科	
物理学専攻	34
化学専攻	36
数学専攻	38
生命科学専攻	40
国際社会科学研究科	42
国際文化交流研究科	44
教育研究施設	46
大学院の概要	50
奨学金	51
教員免許状	52
入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)	52
インフォメーション	53

学長からのメッセージ

学長 遠藤 久夫

皆さんは学部での勉強を通じて学問の面白さ、奥深さに触れ、大学院でより専門を深めたいと考えている方々だと思います。輝かしい未来を期待した21世紀でしたが、四半世紀を過ぎようとする現在、私たちの社会の不確実性は大きく高まっています。この課題を解決する上で、人間がこれまで蓄積してきた学問から導き出される叡智は非常に有効です。その意味で、未来を生きる皆さんの学問を深めようとする志を心より応援します。

学習院大学大学院は8研究科(22専攻)で構成されます。各研究科でどのようなことが学べ、どのような研究が行われているのかは大学院案内に記載されていますので、進路選択の手掛かりにしてください。

本学は教育目標として「精深な学術の理論と応用とを研究教授し、高潔な人格及び確乎とした識見並びに健全で豊かな思想感情を有する、文化の創造発展と人類の福祉に貢献する人材を育成すること」を掲げています。この理念が示す通り、学内には極めて高い研究志向の気風が根付いています。

その成果は客観的な指標にも表れています。文部科学省の「科学研究費助成事業(科研費)」における採択率では、令和3(2021)年度から5(2023)年度まで私立大学で第1位、令和6(2024)年度第2位、令和7(2025)年度第3位という極めて高い水準を維持しています。また、日本の物理学界で最も権威ある賞の一つである「仁科記念賞」を令和7(2025)年に本学教員が受賞しました。同賞の受賞者は本学で4名を数えます。さらに「Nature Index 2018 Japan」によれば、高品質な科学論文の出版割合(2012-2017年)において、本学は国内の全学術機関の中で第1位を獲得しました。

この研究力は、次世代を担う学生の教育にも還元されています。優れた研究を行う大学院生を顕彰する「日本学術振興会育志賞」を令和6(2024)年度、令和7(2025)年度と続けて本学大学院生が受賞しました。本学での受賞者は累計3名にのぼります。全国の主要大学から推薦された精鋭の約1割しか選ばれないこの賞の獲得は、本学の教育水準の高さを物語るものです。

学問の道は決して楽ではありませんが、本学の高い学問風土の下で、志ある皆さんが充実した学究生活を送れるよう心から願っています。

法律学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（法学）

博士後期課程：博士（法学）

▶ 法学研究科の特長

法学研究科は、法律学に関するきわめて高度な専門知識と幅広い素養を備え、自立して研究活動を遂行する能力を有する人材および高度な法律知識を習得し、実務で活躍する専門的職業人を養成することを目的としています。

本研究科は、1972年に修士課程（後の博士前期課程）として発足し、その後、1986年に博士課程（後の博士後期課程）が置かれました。2004年に法科大学院が設置されたことに伴い、博士前期課程が廃止されましたが、2016年4月から、博士前期課程を再開しました。

本研究科の入学定員は博士前期課程10名（収容定員は20名）、博士後期課程3名（収容定員は9名）であり、文字通り少人数の優秀な学生を、約30名の一流の教員が手厚く指導するのが本研究科の特長です。本研究科博士後期課程の修了者数は決して多くありませんが、大学教員その他の研究職に就き、活躍しています。

法律学について高度な研究を志す者又は高度な専門職業人を志す者の入学を歓迎します。

▶ 法律学専攻の概要

本大学院法学研究科法律学専攻は、優秀な研究者、高度の専門知識をもった職業人の育成につとめ、本学設立の目的使命の達成を完からしめようとして、開設されたものです。今日までの修了者を見ると、大学での研究者や企業での職業人となっている者のほか、裁判官、弁護士として法曹界に所属し活躍する者が少なくありません。

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

博士後期課程進学／民間企業／法律事務職員など

■博士後期課程

学習院大学東洋文化研究所／日本大学法学部／長崎県立大学地域創造学部／みずほ信託銀行など

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- 中国におけるプラットフォーム労働の法規制
- R.ドゥワーキンにおける価値の客観性
- 遺産確認の訴え
- 所持品検査の適法性
- 注文者の任意解除権に関する一考察
- 教育の機会均等の現代的意義とその実現
- 「簡易」組織再編法制の再検討
- 宗教団体内部紛争についての司法審査権の限界
- 外国人の参政権
- 内部統制体制と監督義務

■博士後期課程

- 親権行使の再構築に関する比較的研究
- 音楽著作物の創作性及び類似性の判断基準に関する一考察
- 明治中期の民法教育・民法学習の展開についての実証的研究
- 差止裁判例に見る受忍限度の2つの機能
- 信託における忠実義務の展開と機能
- 欧州における予防原則の法政策的意義に関する研究
- 国際金融機構の業務的活動における国際機構と加盟国との間の法的関係に関する研究
- 国民投票の研究
- アメリカ三大テレビジョンネットワークにおけるAffiliation Agreementに関する私法分析

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

法学基礎研究	労働法演習
憲法特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	経済法特殊研究
憲法演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	経済法演習
国際法特殊研究	知的財産法特殊研究
国際法演習	知的財産法演習
行政法特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	租税法特殊研究
行政法演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	租税法演習
民法特殊研究Ⅰ～Ⅳ	国際私法特殊研究
民法演習Ⅰ～Ⅳ	国際私法演習
商法特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	英米法特殊研究
商法演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	英米法演習
刑法特殊研究Ⅰ・Ⅱ	ドイツ法特殊研究
刑法演習Ⅰ・Ⅱ	ドイツ法演習
刑事訴訟法特殊研究	法哲学特殊研究
刑事訴訟法演習	法哲学演習
民事訴訟法特殊研究Ⅰ・Ⅱ	研究指導
民事訴訟法演習Ⅰ・Ⅱ	法学研究科特殊研究Ⅰ～Ⅴ
労働法特殊研究	

博士後期課程授業科目

憲法特別研究	刑事学特別研究
憲法演習	刑事学演習
国際法特別研究	租税法特別研究
国際法演習	租税法演習
行政法特別研究	環境法特別研究
行政法演習	環境法演習
民法特別研究	西洋法制史特別研究
民法演習	西洋法制史演習
商法特別研究	国際私法特別研究
商法演習	国際私法演習
刑法特別研究	英米法特別研究
刑法演習	英米法演習
刑事訴訟法特別研究	ドイツ法特別研究
刑事訴訟法演習	ドイツ法演習
民事訴訟法特別研究	フランス法特別研究
民事訴訟法演習	フランス法演習
労働法特別研究	法哲学特別研究
労働法演習	法哲学演習
経済法特別研究	比較信託法特別研究Ⅰ・Ⅱ
経済法演習	法学研究科特殊研究
知的財産法特別研究	
知的財産法演習	

指導教員および研究分野など

青井 未帆 教授 憲法	阿部 克則 教授 国際法	大久保 直樹 教授 経済法	大橋 洋一 教授 行政法
大村 敦志 教授 民法	尾形 健 教授 憲法	小山田 朋子 教授 英米法	神前 禎 教授 国際私法
神作 裕之 教授 商法	小塚 莊一郎 教授 商法	櫻井 敬子 教授 行政法	佐瀬 裕史 教授 民事訴訟法
鎮目 征樹 教授 刑法	竹中 悟人 教授 民法	常岡 孝好 教授 行政法	津村 政孝 教授 刑事訴訟法
長戸 貴之 教授 租税法	橋本 陽子 教授 労働法	長谷部 由起子 教授 民事訴訟法	早川 咲耶 教授 商法
マシャド・ダニエル 教授 民法	松下 淳一 教授 民事訴訟法	水野 謙 教授 民法	村山 健太郎 教授 研究科委員長 憲法、比較憲法
森田 修 教授 民法	山下 純司 教授 民法・信託法	若松 良樹 教授 法哲学	

教員の詳細はこちら▶



政治学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（政治学）

博士後期課程：博士（政治学）

▶ 政治学専攻の特長

政治学研究科は「日本政治・政策研究」「国際関係・地域研究」「社会・公共領域研究」という3種類のコースに分かれ、それぞれ大学院生としての分析・研究の能力を訓練します。国際公務員など、修士号あるいはそれ以上の学位を持っているのが普通である職種もあれば、創造性が求められ、より高い学位が役立つ職種もあります。本研究科は、高等教育に対する社会的要請に対応しており、実務研修や海外での英語研修、短期留学などのプログラムを利用して、大学院生が一人では実現しにくい新しい学習環境に身を置くことができます。少人数教育の中で訓練を受け、自分自身で問題を見つけ、それに独自の方法で解答を見出すことができるようになる大学院教育は、大きな意義を有します。

▶ 政治学専攻の概要

グローバル化した今日の社会において求められているのは、高度な専門知識、実践的な問題解決能力、アイデアを形にして他者に伝える技術を兼ね備えた人材です。本専攻・博士前期課程では、こうした人材を育成するためのカリキュラムを提供しています。学生は将来の活躍をめざすフィールドに従って、日本政治・政策研究コース、国際関係・地域研究コース、社会・公共領域研究コースのうちから一つを選択し、それぞれ「コース専門科目」「政策・実務科目」などを受講し、さらに各コースが主催する研究会に参加し、最近の研究動向や社会の最前線からの報告に接することになります。その上で、個別的研究指導を定期的に受けた「タムペーパー」の作成を経て、特定課題研究（あるいは修士論文）を提出し、学位（「修士（政治学）」）を取得します。

博士後期課程は第一線の研究能力を育成することを目的としており、本研究科博士前期課程からの進学を希望する場合は修士論文の提出が義務づけられています。

▶ 修了後の主な進路

●研究・教育職系

学習院大学／学習院女子大学／茨城大学／桜美林大学／大阪学院大学／北九州市立大学／京都外国語大学／駒澤大学／静岡県立大学／島根県立大学／高崎経済大学／拓殖大学／中京大学／中部大学／筑波大学／東京経済大学／広島修道大学／広島市立大学／法政大学／山形県立米沢女子短期大学／明治大学／宮崎公立大学／独立行政法人大学入試センター研究開発部／学習院中等科

●実務系

【官公庁・国際機関など】

外務省／経済産業省／防衛省／法務省／国立国会図書館／衆議院事務局／衆議院議員政策秘書／自由民主党本部／東京都庁／横須賀市役所／横浜市役所／千葉県市町村（除：千葉市）／茨城県市町村／UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）

【財団・社団法人など】

地方公共団体情報システム機構／独立行政法人国立特別支援教育総合研究所／国立大学法人東京大学（事務）／帝京大学（事務）／一般財団法人行政管理研究センター／一般社団法人輿論科学協会

【報道機関・出版社など】

朝日新聞社／時事通信社／日本経済新聞社／日本放送協会（NHK）／読売新聞社／第一法規／都市出版／ベネッセコーポレーション

【銀行など】

日本銀行、日本政策金融公庫／三菱UFJ銀行／ゆうちょ銀行／北國銀行／横浜銀行／東京スター銀行

【一般企業】

アイネス／アクセンチュア／アビームコンサルティング／茨城計算センター／NTTシステム開発／大塚商会／キッコーマン／共立印刷／光村印刷／小林製薬／コムテック／コングレ／佐藤工業／芝工業／松竹／信越化学工業／住友商事／電通／東海汽船／日本航空／バンダイ／日立システムズエンジニアリングサービス／富士通／博報堂プロダクツ／丸紅／みずほリサーチ&テクノロジーズ／三井住友建設／三井物産／三井物産トレードサービス／三菱電機／メルセデス・ベンツ日本／郵船ロジティクス／ヨドバシカメラ／楽天／わかもと製薬／ワークスアプリケーションズ／上海アジマス建設工程有限公司／ハイセンスジャパン／日本冶金工業株式会社

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

【日本政治・政策研究コース】

- 港湾における競争力と環境政策の両立可能
- 日本における女性の政治参画による政策効果とは
- 被災地のまちづくり
- 日本の初等中等教育行政領域における地方自治体の自律性:公立中高一貫校を題材に
- 都道府県庁所在地の市長選挙統計分析

【国際関係・地域研究コース】

- ロシア大統領の教書演説におけるフレーム分析
- 中華民族ナラティブのネット世論における効用と限界
- 民族紛争の臨界点:タタルスタンとチェチェン
- アメリカ連邦議会予備選挙において党指名を獲得する共和党女性候補者の特徴
- 金正恩政権の対外政策の変化

【社会・公共領域研究コース】

- 戦前日本とエネルギー・鉱物資源開発圏「樺太」の地政学的“一体感”と“断層”

- ・オンライン自習室の事例から見る間接的な自己呈示
- ・中国における中学生の学習時間格差:社会階層と地域移動に着目して
- ・交換様式Dはなぜ必然的に到来すると言えるのか:柄谷行人の交換様式論における未来像
- ・現代社会における構造的不正義の存在と限界:クラシック音楽界を通して考える
- ・エンハンスメントは自己実現につながるか:メイクと美容整形の比較を通して

■博士後期課程

- ・デジタルメディアの世論形成
- ・日本における公共圏への参加意識の変遷に関する考察
—現実社会からインターネット社会へ—

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

基礎文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	現代ヨーロッパ政治
共同基礎演習Ⅰ・Ⅱ	公共思想史
英語研究論文執筆演習	公共哲学研究
英語研究プレゼンテーション演習	日本政治思想研究
行政とガバナンス	社会階層論
日本の統治構造	社会情報学
日本政治研究	政治行動論
計量政治分析	統計分析Ⅰ・Ⅱ
歴史政策論	政治学研究科演習
公共政策論	政治学研究科特殊研究
現代国際政治	政策課題研究
国際政治経済論	政策評価演習
国際開発協力論	実務研修
現代アメリカ政治	政策実務演習
現代東アジア政治	研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
現代中国政治	政治学基本研究

博士後期課程授業科目

政治学特殊研究	西洋政治思想史特殊研究
政治学演習	日本政治外交史特殊研究
社会学特殊研究	ヨーロッパ政治史特殊研究
社会学演習	日本政治過程論特殊研究
行政学演習	日本政治思想史演習
公共政策論演習	アメリカ政治演習
公共哲学特殊研究	東アジア政治特殊研究
国際政治特殊研究	中国政治特殊研究
国際政治演習	共同基礎演習
国際開発協力論演習	共同特別演習
社会心理学演習	

※「演習」か「特殊研究」かは変更されることがあります。

指導教員および研究分野など

飯田 芳弘 教授 現代ヨーロッパ政治	磯崎 典世 教授 現代東アジア政治	伊藤 修一郎 教授 公共政策論	井上 寿一 教授 歴史政策論
上神 貴佳 教授 日本政治研究	江藤 名保子 教授 現代中国政治	古城 毅 教授 公共思想史	阪口 功 教授 研究科委員長 国際政治経済論
周東 美材 教授 社会情報学	庄司 香 教授 現代アメリカ政治	玉手 慎太郎 教授 公共哲学研究	中田 喜万 教授 日本政治思想研究
野中 尚人 教授 日本の統治構造	藤田 由紀子 教授 行政とガバナンス	三輪 洋文 教授 計量政治分析	麦山 亮太 教授 社会階層論
村主 道美 教授 現代国際政治	元田 結花 教授 国際開発協力論	横山 智哉 教授 政治行動論	

教員の詳細はこちら▶



経済学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（経済学）

博士後期課程：博士（経済学）

▶ 経済学研究科の特長

現代は、経済の仕組みがいよいよ高度化・複雑化している時代です。それに伴い、新たな問題が次々に現れ、経済学が取り扱う領域はますます広がり、併せて社会に対し果たすべき責任も増えています。

そのような中で、経済人として社会で一層活躍するためには、学部で修得した知識の上に蓄積される新たな学問的付加価値が、強く求められます。本研究科では、このような観点を踏まえ、広く深い視野から経済学を理論的・実証的に学び、経済現象のよりの確な理解に迫ります。

博士前期では、研究者養成コースに加えて高度な専門職業人の養成を目的とする専修コースもあります。専修コースでは修士論文を課さず、特定課題研究としています。

▶ 経済学専攻の概要

近年、内外の経済は、AI等の技術革新やグローバル化の急激な進展ならびに超高齢社会の到来などに伴って、新たな解決困難な課題に直面しています。こうした諸問題に対処するために、経済学はこれまで展開されてきた理論ならびに実証分析のさらなる深化と新たな研究が要請されるとともに、国際間における学術交流のより一層の進展ならびに隣接諸科学との学際的研究が強く求められています。

こうした中、経済学の研究においては、内外で大きな前進が見られつつあります。例えば、経済主体の行動をその相互依存関係や情報の非対称性を考慮して分析する情報の経済理論が飛躍的に進歩しました。情報の経済学は産業組織、金融システム、労働市場、教育経済、医療経済、公共経済、国際経済、マクロ経済、経済発展など、さまざまな分野の分析に応用されるようになってきました。また、不確実性下の経済行動を人間の心理的側面を取り入れた期待形成を考察して分析する研究など、経済学には新たな展開を進めつつある研究分野が多くあります。これらの最新研究の動向を踏まえて、経済学研究科は、問題解決能力を身につけた人材を社会に送り出すことを責務と考え、すでに経済社会で活躍している社会人への教育も含め、経済環境の変化を見据えたより本質的な能力開発の機会を提供する教育機関となるべく、より優れた教育環境の整備に努めています。本研究科経済学専攻は、経済社会に貢献できる高度な専門能力を備えた経済学研究者および社会人を育成するという大学院教育に課せられた社会的要請に応えることを目指しています。

▶ 修了後の主な進路

■ 博士前期課程

警視庁／日本大学／ティービーケー・システムズ(株)／方正(株)／(株)ビックカメラ／イオンマーケット(株)／ニッカ電測(株)／マークラインズ(株)／(株)ヒロケイ／三井E&Sシステム技研(株)

■ 博士後期課程

JPモルガン／淑徳大学／日本大学／アイシン(株)

▶ 大学院生の研究テーマ

■ 博士前期課程

- 民営化と混合寡占の経済分析
- 従業員発明者に対する最適報奨契約の設計
- 中国の物価と為替レートのパススルー
 - 輸入、生産者、消費者物価による検証—
- 中国の医療訴訟の経済分析
- 教育NPO創設時における活動資金取得の多段階ゲームモデル分析
- 中小企業の取引関係について
 - 「取引費用の経済学」の観点からの実地調査—
- 直接投資と企業の利益率、生産性、中国電子情報産業の実証分析
- 日本の金融政策イベントが株式市場の高頻度リターンとボラティリティに及ぼす影響
- 借入制約、法人税およびミスアロケーション
- 証券市場のマルチファクターモデルにおける長期記憶性の影響
- インターネットの発展が二国間貿易に与える影響について—先進国と発展途上国の視点から見—
- Privacy and Click probability investment in platform competition
- 新幹線が沿線地域のイノベーションに及ぼす影響について
- 中国銀行業の信用リスクに関する分析
- 外資企業の参入と日本の製造業の生産性(都道府県別、事業所別、産業内スピルオーバーの分析)
- 中国における太陽光発電政策の効果検証
- 半導体産業におけるクラスター政策と企業のイノベーション創出への効果
 - 日本、中国、台湾の国際比較分析
- デジタルビジネスがサービス貿易に与える影響
- 教育が女性の出生活動に与える影響:ラオスにおける実証分析
- 日本アニメの海外興行収入における文化的距離の役割

■ 博士後期課程

- Essays on Statistical Analysis in Revenue Management and Selecting Populations for Dependent Data(レベニューマネジメントにおける統計的分析および従属データの母集団選択問題の研究)
- CSR活動の経済分析
 - 環境パフォーマンスの評価・要因分析を中心として—
- 銀行業の破綻リスクに関する実証的研究—中国の銀行を中心として—
- 新興国のクロスボーダー取引における通貨の選択—人民元国際化への含意—
- 対内直接投資と日本企業の生産性:事業所別にみた間接効果の分析
- 現地通貨建て取引の現状と課題—アジアを中心として現地通貨利用を促進する要因分析—

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

経済数学特論Ⅰ・Ⅱ	西洋経済史特殊研究	労働経済学特殊研究
マクロ経済学特論Ⅰ・Ⅱ	西洋経済史演習	労働経済学演習
ミクロ経済学特論Ⅰ・Ⅱ	経済政策特殊研究	社会保障論特殊研究
ゲーム理論特論Ⅰ・Ⅱ	経済政策演習	社会保障論演習
計量経済学特論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論特殊研究	公共経済学特殊研究
国際経済学特論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論演習	公共経済学演習
日本経済史特論Ⅰ・Ⅱ	日本経済論特殊研究	ミクロ経済学特殊研究
経済政策特論Ⅰ・Ⅱ	日本経済論演習	ミクロ経済学演習
産業組織論特論Ⅰ・Ⅱ	規制の経済学特殊研究	景気循環論特殊研究
日本経済論特論Ⅰ・Ⅱ	規制の経済学演習	景気循環論演習
財政学特論Ⅰ・Ⅱ	数量経済分析特殊研究	経済成長論特殊研究
統計学特論Ⅰ・Ⅱ	数量経済分析演習	経済成長論演習
労働経済学特論Ⅰ・Ⅱ	数理計画論特殊研究	理論経済学特殊研究
社会保障論特論Ⅰ・Ⅱ	数理計画論演習	理論経済学演習
公共経済学特論Ⅰ・Ⅱ	財政学特殊研究	応用経済学特殊研究
現代金融論特論Ⅰ・Ⅱ	財政学演習	応用経済学演習
一般経済史特論Ⅰ・Ⅱ	金融論特殊研究	時系列分析特殊研究
開発経済学特論Ⅰ・Ⅱ	金融論演習	時系列分析演習
ゲーム理論特殊研究	国際金融論特殊研究	データサイエンス特殊研究
ゲーム理論演習	国際金融論演習	データサイエンス演習
計量経済学特殊研究	統計学特殊研究	経済学研究科特殊研究Ⅰ・Ⅱ
計量経済学演習	統計学演習	経済学研究科特殊研究Ⅲ・Ⅳ
国際貿易論特殊研究	空間経済学特殊研究	国際金融論特論Ⅰ・Ⅱ
国際貿易論演習	空間経済学演習	
日本経済史特殊研究	開発経済学特殊研究	
日本経済史演習	開発経済学演習	

博士後期課程授業科目

経済数学特論Ⅰ・Ⅱ	西洋経済史特殊研究	労働経済学特殊研究
マクロ経済学特論Ⅰ・Ⅱ	西洋経済史演習	労働経済学演習
ミクロ経済学特論Ⅰ・Ⅱ	経済政策特殊研究	社会保障論特殊研究
ゲーム理論特論Ⅰ・Ⅱ	経済政策演習	社会保障論演習
計量経済学特論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論特殊研究	公共経済学特殊研究
国際経済学特論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論演習	公共経済学演習
日本経済史特論Ⅰ・Ⅱ	日本経済論特殊研究	ミクロ経済学特殊研究
経済政策特論Ⅰ・Ⅱ	日本経済論演習	ミクロ経済学演習
産業組織論特論Ⅰ・Ⅱ	規制の経済学特殊研究	景気循環論特殊研究
日本経済論特論Ⅰ・Ⅱ	規制の経済学演習	景気循環論演習
財政学特論Ⅰ・Ⅱ	数量経済分析特殊研究	経済成長論特殊研究
統計学特論Ⅰ・Ⅱ	数量経済分析演習	経済成長論演習
労働経済学特論Ⅰ・Ⅱ	数理計画論特殊研究	理論経済学特殊研究
社会保障論特論Ⅰ・Ⅱ	数理計画論演習	理論経済学演習
公共経済学特論Ⅰ・Ⅱ	財政学特殊研究	応用経済学特殊研究
現代金融論特論Ⅰ・Ⅱ	財政学演習	応用経済学演習
一般経済史特論Ⅰ・Ⅱ	金融論特殊研究	時系列分析特殊研究
開発経済学特論Ⅰ・Ⅱ	金融論演習	時系列分析演習
ゲーム理論特殊研究	国際金融論特殊研究	データサイエンス特殊研究
ゲーム理論演習	国際金融論演習	データサイエンス演習
計量経済学特殊研究	統計学特殊研究	国際金融論特論Ⅰ・Ⅱ
計量経済学演習	統計学演習	
国際貿易論特殊研究	空間経済学特殊研究	
国際貿易論演習	空間経済学演習	
日本経済史特殊研究	開発経済学特殊研究	
日本経済史演習	開発経済学演習	

指導教員および研究分野など

赤司 健太郎 教授 計量経済学	五十嵐 岳 教授 統計学	石井 晋 教授 日本経済史（近現代）	神戸 伸輔 教授 ミクロ経済学、ゲーム理論、 契約および交渉の経済分析
黒川 義教 准教授 マクロ経済学、国際貿易論	清水 順子 教授 国際金融論、外国為替	清水 大昌 教授 応用ミクロ経済学、産業組織、 競争政策、空間経済学	鈴木 亘 教授 社会保障論、医療経済学、 福祉の経済学
滝澤 美帆 教授 マクロ経済学、データ分析	西村 淳一 教授 産業組織論、 イノベーションの経済学	深井 太洋 准教授 労働経済学、応用ミクロ計量経済学	福地 純一郎 教授 統計学、計量経済学
細野 薫 教授 研究科委員長 マクロ経済学、金融論	眞嶋 史叙 教授 グローバル経済史、比較消費文化論	増田 一八 准教授 開発経済学、教育経済学、 医療経済学	三井 清 教授 公共経済学、財政学
椋 寛 教授 国際経済学（国際貿易）	村瀬 英彰 教授 経済政策論、金融論、マクロ経済学、 日本経済論	和光 純 教授 ゲーム理論、数理経済学	教員の詳細はこちら▶



経営学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（経営学）

博士後期課程：博士（経営学）

▶ 経営学研究科の特長

経営学研究科は、真に少人数の環境で教員の緊密な指導を受けながら、高度な専門性を深められる点を最大の特徴としています。マーケティング、経営組織・管理、経営戦略、会計・財務、経営科学・情報、経営史、複合・国際系など、経営学の諸分野を高水準かつバランス良く備え、専門分野の深化と関連領域の知識修得を可能にしています。大学院生専用の研究室環境も整っており、入学初年度から個別の研究指導を受けることができます。職業訓練を意識した大規模校における環境に比べ、学問の基礎を尊重し、大学院生主体の研究を支える徹底した少人数教育を貫いています。

▶ 経営学研究科の概要

経営学研究科では、経営学を学際的な学問として捉え、多様な研究分野を通じて専門性と複合的思考力の双方を養成しています。少人数体制のもと、教員による緊密かつ柔軟な個別指導を重視し、従来の枠組みにとらわれない研究テーマ設定を可能にしています。マーケティング系では消費者行動、データ分析、戦略を軸に市場理解を深め、経営組織・管理系では組織構造や人材マネジメント、従業員行動を分析します。経営戦略系ではイノベーションや競争戦略、起業を理論と計量分析の両面から研究します。会計・財務系では財務報告、ガバナンス、会計・税務の実証研究を行い、経営科学・情報系では統計分析、モデル分析、AIやサプライチェーンなど実践的スキルを修得します。さらに、経営史系では各国の歴史的背景を踏まえた企業発展を比較研究し、複合・国際系では国際企業活動を多角的に分析できる専門職業人を育成します。加えて、他大学院との相互履修制度により、学修の幅を広げることができます。

▶ 経営学研究科の相互履修制度

上智大学経済学研究科 武蔵大学経済学研究科
 成城大学経済学研究科 成蹊大学経済学研究科
 成蹊大学経営学研究科

▶ 修了後の主な進路

■ 博士前期課程

(株)日立コンサルティング/DHLサブライチェーン(株)/デンソー(広州)/アサツーディ・ケイ/アビームコンサルティング(株)/(株)シーネット/(株)ニトリ/みずほ銀行/CTrip(上海)/(株)大和システムクリエイティブ/新宿ワシントンホテル/信金中央金庫/華夏楽遊/日本アイ・ピー・エム システムズ・エンジニアリング(株)/(株)ブルーオーシャン/(株)日立システムズ/知日塾/網易娛樂(株)/ステート・ストリート信託銀行(株)/KPMG税理士法人/アビーム・コンサルティング/富士通(株)/McKEN Group/(株)丸井グループ/日本アイ・ピー・エムデジタルサービス(株)/リファインホールディングス(株)

■ 博士後期課程

青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科/あずさ監査法人/東京経済大学経営学部/東洋学園大学現代経営学部/山口大学経済学部

▶ 大学院生の研究テーマ

- 中国人消費者の知覚リスクの変化が越境EC利用意向に与える影響～日本商品を対象に～
- 物語広告を活用した広告戦略に関する研究
- 企業会計における実現概念と法人税法第22条4項における実現の検証
- 消費者コミュニティが企業のユーザー・イノベーションに与える影響
- 企業のエシカルな取り組みが消費者の購買行動に与える影響
- 「戦後復興期の八幡製鉄所 業績手当からみた我が国の賃金体系の特徴」―集団間の競争について―
- プラットフォームはいかに成長するのか
―Amazonの事例のシステム思考による分析―
- 企業の社会的責任活動がイノベーションに及ぼす影響について
- コ・ブランディングが購買意図に与える影響に関する研究
- サブスクリプション・サービスにおける価格感度の法則性と顧客満足構造との関係
- 脱・物質主義説の再検討―有形財のシェアリング・エコノミーに着目して―
- 税効果会計の利益認識―繰延税金資産の当初認識と再評価―
- 連結財務諸表におけるのれんのシナジー効果
- 夫婦の共同意思決定に関する一考察―知育玩具を事例として―
- 会計制度における無形資産の認識範囲―人的資源の検討―
- サッカークラブの持続可能性要因の探求―機械学習を用いた分析とフィールドワークによる包括的アプローチ―
- 人的資源管理と組織成員のエンゲイジメントキャリア自律意識の調整効果
- EC プラットフォームにおけるリアルタイム情報が購買意図に与える影響
- 自己株式処分差損益の会計処理

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

経営科学特殊研究Ⅰ・Ⅱ	交通経営論特殊研究
経営科学演習	交通経営論演習
経営データ分析特殊研究Ⅰ・Ⅱ	経営労務論特殊研究
経営データ分析演習	経営労務論演習
経営意思決定特殊研究Ⅰ・Ⅱ	経営財務論特殊研究Ⅰ・Ⅱ
経営意思決定演習	経営財務論演習
経営統計特殊研究Ⅰ・Ⅱ	マーケティング特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
マーケティングサイエンス特殊研究Ⅰ・Ⅱ	マーケティング演習
マーケティングサイエンス演習	消費者行動特殊研究Ⅰ・Ⅱ
マーケティング・リサーチ特殊研究	消費者行動演習
経営学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	会計学特殊研究
経営学演習Ⅰ・Ⅱ	会計学演習
戦略行動特殊研究Ⅰ・Ⅱ	原価会計特殊研究
戦略行動演習	原価会計演習
イノベーション特殊研究Ⅰ・Ⅱ	会計監査論特殊研究Ⅰ・Ⅱ
イノベーション演習	会計監査論演習
経営組織論特殊研究Ⅰ・Ⅱ	管理会計特殊研究Ⅰ・Ⅱ
経営組織論演習	管理会計演習
組織行動論特殊研究	日本経営史特殊研究Ⅰ・Ⅱ
組織行動論演習	日本経営史演習
企業論特殊研究Ⅰ・Ⅱ	経営史特殊研究
企業論演習Ⅰ・Ⅱ	経営史演習
経営戦略特殊研究Ⅰ・Ⅱ	経営学研究科特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
経営戦略演習	経営学文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
産業発展論特殊研究Ⅰ・Ⅱ	ケース分析演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
産業発展論演習	データ解析演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
国際経営特殊研究Ⅰ・Ⅱ	研究指導Ⅰ・Ⅱ

博士後期課程授業科目

経営科学特殊研究Ⅰ・Ⅱ	国際経営特殊研究Ⅰ・Ⅱ
経営科学演習	交通経営論特殊研究
経営データ分析特殊研究Ⅰ・Ⅱ	交通経営論演習
経営データ分析演習	経営労務論特殊研究
経営意思決定特殊研究Ⅰ・Ⅱ	経営労務論演習
経営意思決定演習	経営財務論特殊研究Ⅰ・Ⅱ
経営統計特殊研究Ⅰ・Ⅱ	経営財務論演習
マーケティングサイエンス特殊研究Ⅰ	マーケティング特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
マーケティングサイエンス特殊研究Ⅱ	マーケティング演習
マーケティングサイエンス演習	消費者行動特殊研究Ⅰ・Ⅱ
マーケティング・リサーチ特殊研究	消費者行動演習
経営学特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	会計学特殊研究
経営学演習Ⅰ・Ⅱ	会計学演習
戦略行動特殊研究Ⅰ・Ⅱ	原価会計特殊研究
戦略行動演習	原価会計演習
イノベーション特殊研究Ⅰ・Ⅱ	会計監査論特殊研究Ⅰ・Ⅱ
イノベーション演習	会計監査論演習
経営組織論特殊研究Ⅰ・Ⅱ	管理会計特殊研究Ⅰ・Ⅱ
経営組織論演習	管理会計演習
組織行動論特殊研究	日本経営史特殊研究Ⅰ・Ⅱ
組織行動論演習	日本経営史演習
企業論特殊研究Ⅰ・Ⅱ	経営史特殊研究
企業論演習Ⅰ・Ⅱ	経営史演習
経営戦略特殊研究Ⅰ・Ⅱ	経営学研究科特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
経営戦略演習	経営学文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
産業発展論特殊研究Ⅰ・Ⅱ	ケース分析演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
産業発展論演習	データ解析演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

指導教員および研究分野など

赤松 直樹 教授 マーケティング、消費者行動	井関 紗代 准教授 消費者心理学、消費者行動	金田 直之 教授 会計学、税金と企業経営、 会計に関する実証研究	萱場 豊 教授 行動経済学、応用計量経済学
河合 亜矢子 教授 経営工学、経営情報学、 生産システム	佐々木 康朗 教授 意思決定論、システム科学	白田 由香利 教授 経営情報学	鈴木 健嗣 教授 コーポレート・ファイナンス、 企業評価
武石 彰 教授 研究科委員長 経営戦略と組織、企業間関係	竹内 倫和 教授 組織行動論、組織心理学、 キャリア論	竹原 有吾 教授 経営史	松下 光司 教授 消費者行動論、マーケティング論
本川 勝啓 教授 企業の情報開示、 会計学研究に用いる統計手法	守島 基博 教授 人材マネジメント論、 人的資源管理論	米山 茂美 教授 イノベーションの戦略と組織	和田 哲夫 教授 知的財産マネジメント、国際経営
渡邊 真理子 教授 新興国企業の戦略の実証分析			

教員の詳細はこちら▶



哲学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（哲学）

博士後期課程：博士（哲学）

▶ 哲学専攻の特長

本専攻は博士前期課程と博士後期課程からなり、西洋および日本の哲学・思想史を専攻領域として専門的な研究と教育を行っています。

教授陣は各人の研究課題を尊重し、研究を深化・発展させるために、講義や演習、個人面談、研究会などを通じて、懇切丁寧な研究指導を行っています。これらに加え、合宿や研究旅行に参加し、集中的な講読やディスカッションを行うこともできます。

前期課程には、博士後期課程への進学のほか、教育機関における教員を目指す学生、一般企業や自治体で専門的な知識・経験を活かすことを目指す学生がいます。後期課程では、修了後は大学などの研究教育機関の教員となることを目指します。また海外からの留学生も在籍しています。近年は、特に博士論文の執筆に向けたさまざまな指導を行っており、課程博士の取得者も増加しています。

▶ 哲学専攻の概要

学生の研究の多様化・高度化・専門化により適切に対応するために、実質的な指導に際しては、本専攻の専任教員5名に加えて、本学他専攻や他大学の教員の参加も得ながら指導にあたることも珍しくありません。

カリキュラムには、専任教授陣と学外非常勤講師による多彩で高度な内容の「特殊研究（講義）」と「演習」が用意され、自分の研究課題に沿った科目・単位の履修・習得が義務づけられています。各学生には指導教授（1名）と副指導教授（2名）を定め、研究課題に沿った指導を随時行うとともに、学年ごとに研究の進捗状況を報告する仕組みとするなど、きめ細かな指導を特色としています。また慶応義塾大学、早稲田大学、中央大学各大学院とのあいだに単位互換に関する協定が結ばれています。

本専攻は充実した研究環境を擁しており、書庫・辞書室・閲覧室などには、哲学、西洋哲学史、日本思想史、宗教史などに関連する諸分野の貴重な専門研究書や学術雑誌を約3万冊所蔵しています。これらのほとんどは開架で閲覧することができますし、また一定期間借り出すこともできます。専攻のフロアには大学院生専用の共同研究室が用意されており、個人での思索や読書のほか、学生同士の各種討論会や研究会をはじめとするさまざまな研究活動に利用されています。

また外国人留学生に対しても、海外経験豊富な教授陣が適宜指導にあたっています。

課程修了後は学内外に職を得る以外にも、さらなる研鑽の機会を求めて海外へ長期留学する人、他大学大学院へ進学する人、より特殊な知識・技能あるいは資格の取得などを求めて専門学校などへ入学する人もいます。

▶ 修了後の主な進路

■ 博士前期課程

神田外語大学／共立女子学園／郡山女子短期大学／福島県庁／紀伊国屋書店／キャノンITソリューションズ株式会社／株式会社湘南ゼミナール／株式会社全音／日本電子機器／第一法規出版

■ 博士後期課程

学習院女子高等科／学習院大学／神田外語大学／杏林大学／熊本学園大学／神戸大学／郡山女子大学／帝京大学／成城大学／流通経済大学

▶ 大学院生の研究テーマ

■ 博士前期課程

- プラトン『エウテュデモス』研究
- 神の存在論的証明
- ベルクソンにおける「現実」とは何か、「想像力」の機能とは何か
- ベルクソン哲学の価値論的読解—『道徳と宗教の二源泉』を中心として
- アーレントとアンダースにおける技術論と道徳的問題の影響関係について
- 道元の「只管打坐」—〈功夫〉を手掛かりに—
- プラトン『エウテュプロン』におけるソクラテスのアイロニー
- 徳倫理学とヒューム
- ベルクソンにおける生と持続—『創造的進化』を中心—to

■ 博士後期課程

- ショーベンハウアー哲学における芸術論
- 道元と華嚴思想
- フーコーにおける法の歴史的変容とその主体的次元の分析
- プラトン『クラテュロス』におけるプラトンの言語観
- メルロ＝ポンティ哲学における「表現」をめぐる問題系について
- ショーベンハウアーにおける意志と表象としての身体

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

哲学特殊研究
 哲学史特殊研究
 思想史特殊研究
 哲学演習
 思想史演習
 修士論文指導

博士後期課程授業科目

哲学特殊研究
 哲学史特殊研究
 思想史特殊研究
 哲学演習
 思想史演習
 博士論文指導

指導教員および研究分野など

小島 和男 教授 —————
 ギリシア哲学（特にプラトン研究）

松波 直弘 教授 —————
 日本思想史（特に鎌倉仏教思想）

澤田 和範 准教授 —————
 イギリス哲学を中心とする
 西洋近現代哲学
 （とくにヒューム研究、哲学的自然主義）

陶久 明日香 教授 —————
 ドイツ哲学を中心とする
 西洋近現代哲学
 （特にハイデッガー研究）

杉山 直樹 教授 —————
 フランス哲学を中心とする
 西洋近現代哲学
 （特にベルクソン哲学）

教員の詳細はこちら▶



美術史学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（美術史学）

博士後期課程：博士（美術史学）

▶ 美術史学専攻の特長

本専攻は博士前期課程と博士後期課程からなり、日本東洋美術および西洋美術を対象とする美術史学を専攻領域として専門的な研究と教育を行い、「専門的知識・見識を活かして美術（史）と人々を仲介する人材」の養成を目指しています。学生は学部レベルで培った知識や関心を土台に、教授陣の細やかな指導のもと自身の研究を深め、また専攻内の多様な研究活動に接して広い視野を養うことができます。特に日本東洋美術史の領域では、自国におけるこの分野のエキスパートを目指す諸外国の留学生も在籍し、国際性に富む環境です。

修了者は国内外の数多くの国公立・私立の美術館や博物館に採用されており、また大学や各種機関で働く者もいます。各国からの留学生は、帰国後にはその国での日本東洋美術史研究の中心的存在として活躍しています。

▶ 美術史学専攻の概要

本専攻は日本東洋美術史の専門家3名、西洋美術史の専門家2名を擁し、美術館学芸員や文化財研究所員の経験豊富な教員もいます。加えて現役の実験美術館学芸員を非常勤講師に迎えており、さらに相互履修協定校（慶應義塾大学大学院、早稲田大学大学院）との単位互換制度も活用できます。

カリキュラムには専任教授陣と学外非常勤講師による「特殊研究（講義）」と「演習」を用意し、教員は自身の最新の専門的関心を学生と共有するとともに、研究者として自立できる力の育成に努めています。学生は自分の研究領域の科目を一定の単位数以上履修し、あわせて研究課題に応じて定める指導教授1名、副指導教授2名からきめ細かな指導・助言を受けながら研究を進め、修士論文あるいは博士論文を執筆します。

関連する他専攻科目を必要単位に算入することも可能で（単位数に制限あり）、特に哲学専攻とのあいだでは、一方の専攻の教員が他方の学生の副指導教授となることもあります。

前期課程修了後は一般企業や美術館などに職を得る者もありますが、さらに後期課程に進んだ者は、諸学会での研究発表を重ねて博士論文の作成を目指します。ただし後期課程を中途退学して美術館学芸員となる、海外の大学院に留学して博士論文を執筆するなど選択肢は多様です。

図書室を哲学専攻と共有しており、約4万5千冊の美術史と哲学の専門書、学術雑誌、各国語のレファレンス文献などが開架で閲覧に供され、両専攻の学生が自由に利用できます。コンピュータやスキャナを備えた大学院生専用の共同研究室があり、読書、文献検索、論文執筆、研究や発表に必要な資料の作成などができるほか、学生同士の討論や研究会にも活用されています。

▶ 修了後の主な進路

■ 博士前期課程

出光美術館／永青文庫／岡田美術館／浅草寺／東京都現代美術館／原美術館ARC／福井県立美術館／山梨県美術館／株式会社キューライターズ／株式会社ヨウジヤマモト

■ 博士後期課程

江戸東京博物館／東京国立博物館／東京都現代美術館／学習院大学／学習院女子大学／お茶の水女子大学／神田外語大学／千葉大学／日本女子大学

▶ 大学院生の研究テーマ

■ 博士前期課程

- ・鎌倉時代における鉦彫像の制作、及び鉦彫像政策における天台宗の関与に関する研究
- ・川瀬巴水研究
- ・古染付・祥瑞の受容について
- ・エドウィン・ランシア作品における擬人化された犬の表象
- ・並河靖之の大正期の非輸出向け作品について
- ・青州駝山、雲門山石窟造像について
- ・総合的キュビズムにおける素材の選択と点描的な表現との関係性について

■ 博士後期課程

- ・日本における二十八部衆図像の成立と展開
- ・オーギュスト・ルノワールによる近代的都市パリ社交場の絵画化
- ・和田三造の工芸分野における業績
- ・アルペール・マルケ(1875～1947)作セーヌ河作品群の評価・需要
- ・中・近世の稚児物語絵研究—秋夜長物語絵を起点として
- ・江戸幕府細工所の研究—江戸時代後期將軍家婚礼道具の文献・器物調査を中心に—
- ・1900～1925年のアメリカにおける中国様式(Chinese style)の特徴
- ・19世紀末フランスにおける浮世絵受容と美術交流
- ・レンブラント作品にみるユダヤ

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

日本東洋美術史特殊研究
 西洋美術史特殊研究
 美術館学特殊研究
 日本東洋美術史演習
 西洋美術史演習
 芸術学演習
 修士論文指導

博士後期課程授業科目

日本東洋美術史特殊研究
 西洋美術史特殊研究
 美術館学特殊研究
 日本東洋美術史演習
 西洋美術史演習
 芸術学演習
 博士論文指導

指導教員および研究分野など

荒川 正明 教授
 日本美術史・工芸史

京谷 啓徳 教授
 西洋美術史

近藤 壮 教授
 日本美術史

皿井 舞 教授
 日本美術史

吉田 紀子 教授
 西洋近代美術史、デザイン史

教員の詳細はこちら▶



史学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（史学）

博士後期課程：博士（史学）

▶ 史学専攻の特長

本専攻は、日本史・東洋史・西洋史の各領域を網羅し、厳密な史料批判に基づいた実証的な研究・教育を行っています。最大の特長は、学生一人ひとりの研究課題を尊重したきめ細かな指導体制です。専任教員に加え、学外の専門家を交えた多角的な指導を行うほか、各学生には指導教授1名と副指導教授2名がつき、研究の深化を強力にバックアップします。学内での講義や演習はもちろん、合宿や巡検といった学外活動も盛んで、集中した読解や議論を通じて学問的知見を広げることが可能です。近年は特に博士学位の取得支援に注力しており、課程博士の授与実績も着実に増加しています。伝統的な知を継承しつつ、次代の歴史学を担う高度な専門性を備えた人材を育成します。

▶ 史学専攻の概要

本専攻では、冒頭で述べた各領域に加え、文化史や社会史など多角的な視点からの歴史研究と教育を展開しています。カリキュラムは、専任教員と学外の第一線で活躍する非常勤講師による「特殊研究」と「演習」を軸に構成しています。指導教授1名と副指導教授2名による徹底した指導システムにより、学年ごとに研究進捗の報告を義務づけることで、着実に論文完成へと導きます。また、慶應義塾大学、早稲田大学、中央大学との単位互換協定を活用し、学外の知見を吸収することも可能です。

組織構成としては博士前期課程（修士課程）と博士後期課程を設置。前期課程では他大学院への進学を目指す者のほか、教育機関の教員や一般企業、自治体への就職を目指す学生が、それぞれの目標に沿って研究に励んでいます。後期課程では研究をさらに深化させ、海外留学生とともに切磋琢磨しながら、最終的な目標である博士論文の提出と、大学等の教育研究機関への就職を目指します。

設備面も充実しており、史学・思想史等の貴重な専門書や学術雑誌約3万冊を所蔵する閲覧室・書庫は、その多くが開架で閲覧可能です。院生専用の研究室は、思索の場としてだけでなく、学生同士の討論会や共同研究の拠点として機能しています。

修了後の進路は多岐にわたり、北海道放送や紀伊國屋書店、東京都庁といった一般企業・公的機関をはじめ、学習院、成城大学、帝京大学などの教育機関へ多くの人材を輩出しています。海外留学や他大学院への進学など、さらなる研鑽を積む修了生も多く、歴史学の知見を活かして社会の多様な分野で活躍しています。

▶ 修了後の主な進路

【大学・高専】

【博士】

北海道大学／福島大学／東京学芸大学／日本大学／鶴見大学／東海大学／淑徳大学／常葉大学／皇學館大学／琉球大学

【修士】

茨城大学／上智大学／高千穂大学／立教大学／明治大学／東京音楽大学／静岡文化芸術大学／駿河台大学／ノートルダム聖心女子大学／九州大学

【研究所】

【博士】

国立歴史民俗博物館／国文学研究資料館アーカイブズ系／国立公文書館／徳川林政史研究所

【修士】

秋田県立埋蔵文化財センター／江戸東京博物館／貨幣博物館／宮内庁書陵部／外務省外交史料館／埼玉県立歴史と民俗の博物館／東京大学史料編纂所／前田育徳会尊経閣文庫／横浜市歴史博物館／出雲弥生の森博物館

【高等学校】

【博士】

駒場東邦高校

【修士】

山形県立高校／筑波大学附属駒場高校／江戸川学園取手高校／西武学園文理高校／自由が丘学園高校／成城学園高校／慶應義塾高校／横浜市立高校／フェリス学院高校／静岡雙葉学園高校

【その他】

【修士】

文部科学省／千葉県庁／東京都庁／警視庁／横浜市役所／講談社／山川出版社／吉川弘文館／トヨタ自動車／鹿島建設

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- ・戦国大名今川氏における三河支配体制の変化とその画期について
- ・近世中後期における旗本と大名家の交際
～幕藩間の政治的ネットワークの検討～
- ・海老名弾正の主戦論と「神の国」構想
—「神の子(Son of God)」に注目して—
- ・明治新政府の人材登用政策
- ・近代日本騎兵が馬術発展と馬事思想普及に与える影響について
- ・近世中後期の流通と地域社会—越後長岡藩を事例に—
- ・前漢期における羌の社会状況の変化と管理体制
- ・ローマ帝政前期における騎士級軍職と社会的流動性
- ・植民地化初期のアルジェリアにおけるアラブ・ベルベル系部族とフランス軍
- ・近世後期和入地における旅人管理と「旅人宿」
—第一次幕領期の箱館の事例から—
- ・カナダの多文化主義とウクライナ系コミュニティ
- ・信玄・勝頼執政期の穴山信君の政治的地位の変遷
—典厩家・道遥軒家との比較を通して—
- ・近世非藏人の職制・存在形態と朝廷
- ・永祿末～天正期における毛利輝元補佐役「御四人」の再検討
—外交・軍事に注目して—

■博士後期課程

- 北一輝の国体論と「純正社会主義」
—その歴史的位置づけと戦後の歴史学—
- 飛鳥浄御原令の研究—官僚制を中心に—
- 戦国期畿内—西国の政治的連動
～天文期尼子氏の播磨侵攻を通して～
- 田中王堂と1910年代
- アングロ=サクソン期イングランドにおける王の称号としてのImperator
- 中世後期公家社会の変容
- 鎌倉期公武政権における訴訟手続の総体的研究
- 江戸幕府馳走構造の研究

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

日本史特殊研究
東洋史特殊研究
西洋史特殊研究
古文書学文献学研究
史学理論史学史研究
日本史演習
東洋史演習
西洋史演習
修士論文指導

博士後期課程授業科目

日本史特殊研究
東洋史特殊研究
西洋史特殊研究
古文書学文献学研究
史学理論史学史研究
日本史演習
東洋史演習
西洋史演習
博士論文指導

指導教員および研究分野など

家永 遵嗣 教授 日本中世史	海老根 量介 准教授 東洋古代史	鐘江 宏之 教授 日本古代史	亀長 洋子 教授 西洋中世史
工藤 晶人 教授 西洋近現代史	佐藤 雄介 教授 日本近世史	志内 一興 教授 西洋古代史	武内 房司 教授 (アーカイブズ学専攻と兼任/2027年3月退職予定) 中国近代史
千葉 功 教授 (アーカイブズ学専攻と兼任) 日本近代史			

教員の詳細はこちら▶



日本語日本文学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（日本語日本文学）

博士後期課程：博士（日本語日本文学）

▶ 日本語日本文学専攻の特長

本専攻は、学科開設以来重んじてきた実証的で堅実な研究方法を学生が身につけるとともに、これからの時代を切り開いていくために必要とされる、創意に満ちた新しい国際的な感覚や学際的な関心を培っていくことを教育の目標としています。特長としては、古典籍の質・量ともに国内有数のコレクションを誇る卓越した研究環境があります。三條西家旧蔵の『枕草子』をはじめとする貴重資料に直接触れられる環境は、研究者としての感性を養う大きな魅力となっています。また、学際的・国際的な関心を培うカリキュラムにより、従来の国文学・国語学の枠を超えた新しい日本学の創出をめざしています。他大学院との単位互換制度や、きめ細かな複数指導体制を整えており、高い志を持つ学生を多角的にサポートしています。

▶ 日本語日本文学専攻の概要

古代から現代に至る日本語・日本文学・日本文化、および日本語教育を主な研究テーマとしています。対照言語学や民俗学、中国文学といった学際的な領域も幅広くカバー。早稲田・慶應などの協定大学院や国文学研究資料館等の講座も単位として認定するなど、開かれた学びを提供しています。

研究活動においては、論文発表や研究発表の機会を豊富に用意している点が本専攻の一つの特色となっています。学習院大学国語国文学会の会員として学会での口頭発表、機関誌への論文掲載の機会が得られるほか、博士後期課程の学生が主体となって編集委員を務める『学習院大学大学院日本語日本文学』では、刊行後には投稿論文の合評会を行い、分野を越えて活発な議論を闘わせています。他にも『学習院大学人文科学論集』などへの投稿機会や全国組織の学会発表機会などがあります。

研究環境面では、院生専用の研究室や図書館のデータベースを利用できる環境に加え、貴重な資料を豊富に収蔵していることを特長の一つとしています。能因本『枕草子』や俳諧、御伽草子の絵巻といった学術的価値の高い資料を比較的自由に閲覧できることは、実証的研究を行う上で大きな強みとなっています。

修了後の進路は多岐にわたります。多くの修了生が国内外の大学、あるいは中高一貫校等の教育・研究職として活躍しています。近年は日本国内にとどまらず、中国や韓国、タイ、タンザニアといった諸外国の教育機関や、国際交流基金などの公的機関を通じて海外で日本語教育・日本学研究に携わる例も増加しており、修了生はグローバルな舞台でその専門性を発揮しています。

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

学習院女子中・高等科／豊島岡女子学園中学校・高等学校／国際交流基金関西国際センター／日本国際教育支援協会（JEES）／文化外国語専門学校／加須市役所／三省堂／宝塚歌劇団／宮内庁／市川日本語学院

■博士後期課程

東京科学大学／福岡教育大学／愛知淑徳大学／学習院大学／神奈川大学／大正大学／中京大学／法政大学／鹿児島国際大学／国際日本文化研究センター

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- ・「上代文学における動物表象の比較－鹿を中心に－」
- ・「松浦宮物語について」
- ・「源氏物語」数字表現と浮舟の考察
- ・「源氏物語」玉鬘と浮舟の流離の運命についての研究
- ・「宇治拾遺物語」の構想に関する研究－「こはいかに」を中心に－
- ・「日本語学習者のスピーチレベルシフト」
- ・「中国人日本語学習者におけるオノマトペの誤用について」
- ・「中国の日本語専攻履修者が来日後に直面する、日本語使用上の困難およびその原因」

■博士後期課程

- ・「源氏物語」明石論
- ・物語文学における月の表象研究
- ・天明／寛政期以降の森島中良の戯作における表現比較
- ・生活者としての日本語学習者の日本語学習継続と自律学習についての研究
- ・生活者としての日本語学習者を対象とした音声教育のあり方
- ・タスクの違いが日本語文法項目の習得に及ぼす影響に関して
- ・日本語の非典型的格標示構文について
- ・日本語における行為要求表現に関する記述的研究

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

日本語学特殊研究
 日本語史特殊研究
 日本文学特殊研究
 日本文学史特殊研究
 日本語学演習
 日本文学演習
 修士論文指導

博士後期課程授業科目

日本語学特殊研究
 日本語史特殊研究
 日本文学特殊研究
 日本文学史特殊研究
 日本語学演習
 日本文学演習
 博士論文指導

指導教員および研究分野など

安部 清哉 教授 日本語学、方言学	海老原 志穂 准教授 言語学	大原 祐治 教授 近現代文学	勝又 隆 教授 上代・中古の日本語
金田 智子 教授 日本語教育学、授業分析	鈴木 健一 教授 近世文学	千野 裕子 准教授 中古文学	中上 亜樹 准教授 日本語教育学、第二言語習得論
中嶋 真也 教授 上代文学	中野 貴文 教授 中世文学	中山 昭彦 教授 近現代文学	前田 直子 教授 現代日本語学

教員の詳細はこちら▶



英語英米文学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（英語英米文学）

博士後期課程：博士（英語英米文学）

▶ 英語英米文学専攻の特長

本専攻は、「イギリス文学」「アメリカ文学」「英語学」「英語教育学」の研究分野はもちろん、ジェンダー表象研究や都市論、認知言語学といった先端領域にも果敢に挑戦し、新たな「英語英米文学」の創造を目指しています。最大の特長は、第一線で活躍する教員によるきめ細かな少人数教育です。院生一人ひとりに主・副の指導教員をつけ、「指導委員会」を設置。個々の関心と可能性を最大限に引き出す体制を整えています。また、学内学会での発表や論文掲載機会を豊富に設け、全国規模の学会への参加も積極的にサポートしています。先輩から後輩へと続く挑戦の文化の中で、修士・博士論文の完成までを確かな足取りで進むことができる環境が整っています。

▶ 英語英米文学専攻の概要

英米の古典的な文学作品から、アイルランド文学、カナダ文学、さらには社会史、ジェンダー、理論言語学、外国語としての英語教育まで、多角的かつ専門的な研究テーマを探究できます。カリキュラムは、学生一人ひとりの関心に応じた高度な専門性を養えるよう設計しており、シェイクスピアやオースティンといった正典の研究から、アメリカ都市論や英語語法文法、最新の語用論に至るまで、多様な学びの選択肢を用意しています。

指導体制においては、院生一人に主指導教員1名と副指導教員1～2名をつけるとともに、「指導委員会」を設置。定期的な進捗確認と丁寧な論文作成指導を通じて、着実に研究を深化させる環境を整えています。特に博士後期課程では、在籍中または満期修了後3年以内の学位取得を目指し、研究者育成を強力にサポートしています。

研究成果の発表機会も豊富です。院生は「学習院大学英文学会」に所属し、研究集会での口頭発表や学会誌への論文掲載を通じて、自身の課題を明確にしながら学位論文の完成へと歩みを進めることができます。また、日本英文学会や日本英語学会といった全国規模の学会活動への参加も強く推奨しており、多くの院生が学外でも意欲的に発表を行っています。

こうした研鑽の場を経て修了した学生の進路は多岐にわたります。全国各地の主要大学をはじめ、短期大学、高等専門学校、国公私立高校などの教育・研究機関において、多くの卒業生が専任教員として活躍しています。また卒業生は、出版社や国際文化交流関連の独立行政法人など各方面へも進出。優秀な業績を積みあげ、高い評価を受けています。

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

一般企業／独立行政法人／国公私立中学校・高校など。

■博士後期課程

藤女子大学(北海道)／青森大学／弘前大学／群馬大学／山梨大学／学習院大学／学習院女子大学／早稲田大学／法政大学／東京理科大学／駒澤大学／國學院大学／関東学院大学／東洋大学／帝京大学／玉川大学／防衛医科大学校／北里大学／麻布大学／実践女子大学／淑徳大学／東京家政学院大学／流通経済大学／東京電機大学／東京工芸大学／松蔭女子大学／日本大学／二松學舎大学／埼玉工業大学／中京大学／名古屋女子大学／関西学院大学／高知大学／熊本大学／鹿児島国際大学／尚美学園大学／福岡女学院大学／志学館大学／埼玉県立大学など(この他にも、4年制大学、短期大学、高等専門学校など多数)。

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- Paul Auster のNew York Trilogy
- 19世紀アメリカの性風俗と女性の社会的地位ヴィクトリア・ウッドハルを通して
- ホーソーンの牧師
- 20世紀のニューヨーク移民
- 『真面目が肝心』における批評精神
- 『トロイラスとクレシダ』における悪女表象
- 18世紀イングランドの庭園表象
- 『ピーター・パン』と第一次世界大戦
- 英語・日本語・タイ語の話しことばにおける目的語非省略の語用論的な類型化と比較
- The Constant Appearance of Accusative *Whom* in Present-Day English
- 法助動詞canと無意志知覚動詞が共起した時のcanの意味解釈
- Effects of Extensive Reading on Attitudes Towards Autonomous Learning
- 上級英語利用者による語用論的認識に関する研究—第二言語語用論的能力の形成とその経過に関する調査
- 日本人英語教師及び学習者の授業における英語使用と母語使用の信念について
- オンライン授業と対面型授業のモチベーションの違い(CALL and Motivation)
- 日本語母語話者の大学生が英語学習時に選択する学習方略と不安尺度に関する混合研究

■博士後期課程

- Subcreation: Symbol and Imaginary World
- Music in E. M. Forster's Works
- 宇宙論から見るシェイクスピア作品における社会的弱者の表象
- シェイクスピア劇における聴覚的イメージとその演劇的効果
- ヴィクトリア朝中期小説におけるセンセーションとディサビリティ
- フリア・アルバレス作品における権力構造
- 文構造と意味の関係—言い方に違いがあるのはなぜか—
- Explore the effect of tasks in extramural digital game based language learning
- On Peculiar Case-Marking Constructions: Unexpected New Findings and Implications

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

英米語学特殊研究
 作家作品特殊研究
 英米語学演習
 英米文学演習

博士後期課程授業科目

英米語学特殊研究
 作家作品特殊研究
 英米語学演習
 英米文学演習
 博士論文指導

指導教員および研究分野など

新井 景子 教授 アメリカ小説	Louise Ohashi 教授 Applied Linguistics	桐山 大介 准教授 アメリカ文学・アメリカ文化	今野 弘章 教授 英語学
田辺 千景 教授 アメリカ文学	中野 春夫 教授 (身体表象文化学専攻と兼任) イギリス文学	平田 一郎 教授 英語学	Andrew Fitzsimons 教授 アイルランド文学
福田 純也 准教授 心理言語学・第二言語習得研究	眞野 泰 教授 イギリス文学	吉野 由利 教授 イギリス文学・アイルランド文学	教員の詳細はこちら▶



ドイツ語ドイツ文学専攻



研究科Webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（ドイツ語ドイツ文学）

博士後期課程：博士（ドイツ語ドイツ文学）

▶ ドイツ語ドイツ文学専攻の特長

本専攻の特長は、ドイツ語圏の文学研究および言語学研究はもちろんのこと、最新の研究動向を積極的に取り入れ、文学や言語をさらに大きな視点から一つの文化現象として捉える「文化研究」を行う場を提供している点にあります。文学・文化の分野では、狭い意味での文学テキストにとどまらず、さまざまな文化現象を社会文化史、メディア論、ジェンダー論、近年の文化理論などの多角的な観点からアプローチすることが可能です。言語学の分野では、歴史言語学、統語論、造語論、意味論といった従来の枠組みの中での研究はもちろん、語用論、テキスト言語学、認知言語学、社会言語学、メディア言語学といった新しい領域に関しても、幅広く研究できる指導体制が整っています。またドイツ語教育の実践にもつながる視点からの研究を行うこともできます。

どの授業も少人数制を徹底しており、個々の研究テーマに即したきめ細かな個別指導を実現しています。またティーチング・アシスタントとしての教育面での実践経験の提供や、他大学院との単位互換制度、海外留学支援を通じて、高度な専門性と国際的な視野を兼ね備えた研究者を育成する環境を整えています。

▶ ドイツ語ドイツ文学専攻の概要

本専攻では、少人数制授業を基本としたきめ細やかな指導体制に加えて、博士前期課程（修士課程）の段階から積極的に研究成果を発表することを推奨し、学位取得に向けて着実にステップアップできるようキャリア形成支援にも努めています。なかでも学習院大学ドイツ文学会では、院生による研究発表ならびに同学会誌への論文投稿が活発に行われているだけでなく、院生も関わりながら講演会や映画上映会の企画・運営等が行われており、自主性や協調性を養う場としても活用されています。また『学習院大学人文科学論集』にも論文を投稿することができます。

博士後期課程では、日本独文学会をはじめとする国内外の学術団体での研究発表を、指導教員のサポートを受けながら積極的に行なっています。また、日本学術振興会特別研究員への採用や、日本学術振興会やDAAD（ドイツ学術交流会）などの留学支援制度による留学を通じて、ドイツ語圏の大学での研究や研究発表につながる大学院生も少なくありません。

このような体制を支える研究環境も充実しており、文学、語学から思想、演劇まで稀有な書籍資料を擁し、蔵書量は洋書約5万冊、和書約4千冊を誇ります。また最新の研究動向を知ることのできる学術誌、新聞、雑誌の購読数も国内では他に類を見ません。大学院生が自由に利用できる研究スペースとしては、院生専用のコンピュータ4台を設置している研究室のほか、東1号館にある大学院生用

の個人学習室やグループ学習室を利用することも可能で、学内ネットワークや各種データベースを活用して論文作成に打ち込める環境が整っています。

学位取得状況としては、博士前期課程ではほぼ全員が修士号を取得しています。博士後期課程においても、在籍期間中の博士論文提出に向けたきめ細かい指導を行っています。国内外の学術交流も盛んで、慶應義塾大学、中央大学、早稲田大学の各大学院との間で単位互換制度を設けています。国際的学術交流としては、DAAD（ドイツ学術交流会）をはじめとする各種奨学金制度を活用し、多くの学生がドイツやオーストリアへ留学しているほか、ドイツ語圏の作家や研究者の招聘、来日イベントも頻繁に開催しており、国内にいるうちから国際学術交流の経験を重ねられる機会も多く提供しています。

課程修了後の進路については、前期課程修了者は、更に後期課程に進学する場合だけでなく、就職する場合もあります。ドイツ関連の組織や企業など、それまでに培った知識やドイツ語力を活かせる職場に勤めている修了者もあり、過去にはドイツ大使館、日独協会などに就職した例があります。後期課程修了者の多くは、全国の大学や高等学校においてドイツ語の教育にたずさわっています。また、日本学術振興会特別研究員（PD）となり研究を継続するケースもあります。

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

Gildemeister AG/NECネットエスアイ/エイエスアール/橋本総業/トランスユーロ/藤沢市役所/東京冷機工業/ドーム/Academy of language Arts/郁文堂

■博士後期課程

獨協大学/学習院大学/慶應義塾大学/立教大学/国士館大学/阪南大学/神戸大学

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- 桂離宮における「つくられた」単純さ
—ブルーノ・タウトの世界観を作り上げた背景—
- 19世紀ドイツにおける民衆メルヘンの受容
- ポストドラマ論から見た能
- ゲーテとシャミッソーに於ける異文化の記述
- 16世紀の印刷ビラ・小冊子の話しことば性と報道性をめぐって
- トルコ系移民のドイツ語の「模倣」と「定着」
— 義的な概念理解のための考察—
- ab, aus 動詞の語彙概念構造に関する比較研究
- 言語意識史から見た言語変化
- 第二次世界大戦以前の日独交流と両国相互の異文化体験
- 20世紀初頭のモダンダンスにおける身体
- ファム・ファタルの表象とその受容—ヴェデキントの“ルル”を中心に
- ドイツ連邦議会における政党・政治家の言説に見られる言語的戦略
- Mal を用いた副詞規定による量化
- メタファーから見たKrieg(戦争)—類似する争いの語彙との比較
- ヘルマン・ヘッセの作品における時代批判
- 同性愛とナチズム
- ジェイムス・クリュスの作品群におけるファンタジー

- 戦争報道における比喩と換喩:日本語とドイツ語の報道を比較して
- ドイツ語否定疑問文の談話内的機能の考察
- ドイツ語分離動詞の構文文法的研究

■ 博士後期課程

- 近現代ドイツ語に関する社会言語学的考察
—新聞・コミックなどのテキストを対象にして—
- 記憶と文学
- 世紀転換期における言語危機の演出
- 18世紀オーストリアにおける文章語の「標準化」に関する計量的分析
- 20世紀前半のドイツにおける日常的「文字景觀」—ドイツ語史とドイツ史の交点を探る
- ドイツ教育改革期における芸術教育の受容
- トーマス・マンのアジア像
- ドイツ語における助数詞の副詞的用法と名詞修飾用法の関係についての構文・意味論的研究
- 不在構文 研究の現状と展望

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

ドイツ語学特殊研究	ドイツ語学演習
ドイツ語史特殊研究	ドイツ語史演習
ドイツ文学特殊研究	ドイツ文学演習
ドイツ演劇特殊研究	ドイツ演劇演習
	修士論文指導

博士後期課程授業科目

ドイツ語学特殊研究	ドイツ語学演習
ドイツ語史特殊研究	ドイツ語史演習
ドイツ文学特殊研究	ドイツ文学演習
ドイツ演劇特殊研究	ドイツ演劇演習
	博士論文指導

指導教員および研究分野など

伊藤 白 教授	犬飼 彩乃 准教授	小林 和貴子 教授	清野 智昭 教授
現代ドイツ文学	現代ドイツ文学、フィクション論、翻訳論	現代ドイツ文学、オーディオドラマ	ドイツ語学、コーパス言語学、ドイツ語教授法
田中 雅敏 教授	田丸 理砂 教授	Thomas Pekar 教授	
ドイツ語学、理論言語学	(身体表象文化学専攻と兼任) ドイツ文学、フェミニズム文学批評	(2027年3月退職予定) ドイツ文学、文化論	

教員の詳細はこちら▶



フランス文学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（フランス文学）

博士後期課程：博士（フランス文学）

▶ フランス文学専攻の特長

本専攻の特長は、「伝統」と「新しさ」の両面にあります。母体のフランス文学科創設に始まる60年以上の歴史を持ち、これまで研究者、大学人のみならず、詩人、評論家、演劇人などを含む多様な人材を輩出してきました。こうした伝統に立脚しつつも、学問を単なる抽象的な知識として捉えるのではなく、我々の現在と密接に結びついた生きた事象と考え、そこに働きかけようとする学びを重視しています。研究の対象が古典であれ現代作品であれ、先入見を排した自由な視点から常に新たなものを見出そうとする。これが本専攻の培ってきた精神と言えます。伝統的な学問の継承と、現代的な感性による新たな価値創造が共存する自由な学風の中で、深い教養と、世界を俯瞰する確かな視座を手にすることができます。

▶ フランス文学専攻の概要

フランスおよびフランス語圏の文学・思想・芸術を研究対象とし、多岐にわたるテーマを専門的に掘り下げます。古典的な文芸作品の構造分析から、現代思想、舞台芸術、さらには移民文学やジェンダー論に至るまで、学生の関心に合わせた多様な研究が可能です。カリキュラムは、基礎的な文献講読から高度な専門演習まで体系的に構成。まずは徹底したテキストの精読を通じて、言語の背後にある歴史的背景や精神構造を把握する力を養います。その上で、フランス語によるディスカッションや論文作成の指導を通じ、国際的な学術水準に耐えうる発信力を磨きます。加えて、早稲田大学、慶應義塾大学など他大学との単位互換制度も設けており、自分の関心に従って様々な授業を受けることが可能です。

研究環境においては、学内図書館の充実したフランス語文献コレクションに加え、日仏会館等の外部研究機関との連携も活発に行っており、学問に没頭できる理想的な舞台が整っています。また、例年多くの学生がフランス各地の大学へ留学しており、現地の空気に触れながら資料収集やフィールドワークを行う経験は、研究の質を飛躍的に高める貴重な機会となります。

修了後の進路は多岐にわたり、大学教員や研究者として学术界へ進む者はもちろん、高度な専門知識と国際感覚を活かして、中学・高校の教員、出版・放送などのマスコミ業界、外資系企業、あるいは国際的な文化交流を担う公的機関など、幅広い分野で活躍しています。博士前期課程・後期課程を通じて培われた、複雑な事象を言葉で解き明かす力は、どのような道に進んでも揺るぎない強みとなるはずで

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

ANAウイングス／共立女子大学文芸学部／学習院大学東洋文化研究所／学校法人一川学園／順天堂大学／株式会社高島屋／東京都庁／日本通運／日本能率協会総合研究所／日本放送協会ほか

■博士後期課程

青山学院大学／跡見学園女子大学／大分県立芸術文化短期大学／学習院大学／慶應義塾大学／白百合女子大学／拓殖大学／早稲田大学ほか

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- アルベール・カミュ研究
- ジェラール・ド・ネルヴァル研究
- シュルレアリスム研究
- テオフィル・ゴーティエ研究
- フランソワ・モーリヤック研究
- マン・レイ研究
- ロマン・ガリ研究
- ル・コルビュジェ研究
- サド研究
- アニー・エルノー研究
- ローラン・プティ研究
- レーモン・ラディゲ研究
- マルセル・ブルースト研究
- ジャン＝ジャック・ルソー研究

■博士後期課程

- アンドレ・ブルトン研究
- アナトール・フランス研究
- ジャン＝ジャック・ルソー研究
- ジョルジュ・ベレック研究
- ラファイエット夫人研究
- ル・クレジオ研究
- ロラン・バルト研究
- アントナン・アルトー研究
- ピエール・ロチ研究

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

フランス語学特殊研究	フランス文学演習
フランス文学特殊研究	フランス演劇演習
フランス語学演習	修士論文指導

博士後期課程授業科目

フランス語学特殊研究	フランス文学演習
フランス文学特殊研究	フランス演劇演習
フランス語学演習	博士論文指導

指導教員および研究分野など

大野 麻奈子 教授 19・20世紀フランス文学、演劇	志々見 剛 教授 16世紀フランス文学	鈴木 雅生 教授 20世紀フランス文学	須藤 健太郎 准教授 (身体表象文化学専攻と兼任) 映画批評、フランス映画史
田上 竜也 教授 20世紀フランス文学、 フランス現代思想	内藤 真奈 准教授 20世紀フランス小説、写真論、 病気表象	Thierry Maré 教授 フランス演劇、ルネサンス文学、 詩法、翻訳論	教員の詳細はこちら▶



心理学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（心理学）

博士後期課程：博士（心理学）

▶ 心理学専攻の特長

心理学専攻は、博士前期課程と博士後期課程から構成されています。前期課程では、学部で学んだ心理学の知識や研究方法をさらに発展させ、先行研究を丁寧に検討した上で実験や調査を行い、修士論文を完成させます。修了後は、博士後期課程に進学して研究職を目指す人のほか、公務員や一般企業に就職する人も多く、理料系的な研究能力を生かした進路が特徴です。後期課程では研究を一層深化させ、学会発表や論文公刊を行い、博士論文の完成を目指します。他大学院修了者にも進学の門戸が開かれており、修了者の多くは大学教員や研究者として活躍しています。また、卒業生による講演会を通して、進路や最新研究に触れる機会も設けられています。

▶ 心理学専攻の概要

心理学専攻では、認知心理学・社会心理学・発達心理学・教育心理学を専門とする教員が在籍し、専門性を生かした研究指導を行っています。心理学は各分野が相互に密接に関係する学問であるため、本専攻では大学院生1名に対して3名の教員が担当する指導委員会体制を採用し、博士前期課程・後期課程ともに分野横断的で丁寧な指導を行っています。この体制により、多様な研究テーマに対して多角的な助言を受けることが可能となっています。研究環境については、北2号館に大学院生用の共同研究室が設けられており、専用ロッカーや院生専用の図書・資料、パソコン、プリンターなどが整備されています。学内LANを利用した文献検索やSPSSによる統計解析も可能で、休日や長期休暇中も所定の手続きを行えば利用できます。また、複数の心理学実験室や計算機室が用意されており、研究目的に応じて自由に活用できます。臨床心理学専攻の院生と研究室を共同利用することで、分野を越えた交流や相互刺激の機会も生まれています。院生の研究活動は非常に活発で、研究成果の学会発表が強く奨励されています。博士後期課程だけでなく、博士前期課程の院生も早期から学会発表に取り組み、国内外の学会で発表する機会を得ています。学会発表を通じて多様な視点から助言を受けることで、研究の質や意欲が高まっています。また、院生同士による自主的な研究会も定期的に開催され、研究計画やデータ分析、論文投稿への対応などについて活発な議論が行われています。さらに、他大学の院生との研究会にも参加し、分野の最先端の研究に触れながら交流を深めています。

▶ 修了後の主な進路

心理学専攻

■博士前期課程

警視庁（心理職）／厚生労働省、防衛省（航空医学実験隊）／人事院／法務省／日立製作所／理化学研究所

■博士後期課程

【教育機関】

愛知教育大学／青山学院大学／神奈川大学／北九州市立大学／京都大学／駒沢女子大学／静岡英和学院大学／十文字学園女子大学／昭和女子大学／専修大学／千葉商科大学／日本福祉大学／福島大学／法政大学／琉球大学

【研究機関】

科学警察研究所／鉄道総合技術研究所／日本色彩研究所／労働政策研究・研修機構

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- 課外活動によるADHD 傾向学生の心理的問題に寄与する要因
- 援助要請の有無が援助行動の評価に与える影響
- 自己複雑性と対人葛藤場面における対処方略との関連性の検討
- 友人関係の葛藤における許しの研究
- 課題の印象が意思決定場面を仮定した先延ばしに及ぼす効果の検討
- 観賞魚に対する印象構造の研究
—印象と視覚要因の関係性の検討—
- 負の感情価を持つ刺激が虚記憶に及ぼす影響DRM パラダイムを用いた検討
- 二者間の積極的伝達場面における透明性の錯覚
- 教師サポートが目標構造、目標志向、学校における適応と行動に及ぼす影響
- 中学生・高校生における目標志向性、達成情動および自己制御方略の関係
- 感情価の違いにおける思考抑制の効果
- 社会的認知過程と行動様式に対する情動の影響と性差
- 非協力者の顔の再認と選択した行動の記憶

■博士後期課程

- 志向される他者はどのような存在として認識されるのか
- 青年期における多様なキャリア形成プロセスの様相：中国の地方大学に通う大学生を対象とした検討
- キャリア発達の教育的支援
- encoding プロセスにおけるフォルスメモリーの抑制効果
- 社会的実在性に依拠する認知的矛盾の統合過程の検討
- ステレオタイプ脅威効果の抑制—社会的比較を用いて—
- 子どもの学校適応に影響を与える要因の検討
- 大学生の就職活動時における目標と就職活動の関連
- ストレス体験の意味の変容および自己像の変容過程
- スポーツ場面における誤認知
- 他者志向的動機が達成行動に果たす役割

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

心理学特殊研究 6
心理学演習 1・2・3・4

博士後期課程授業科目

心理学特別研究 3・5
心理学演習 1・2・3・4
博士論文指導

指導教員および研究分野など

伊藤 忠弘 教授
(臨床心理学専攻と兼任)
社会心理学、教育心理学

今井 久登 教授
(臨床心理学専攻と兼任)
認知心理学、実験心理学、認知科学

篠ヶ谷 圭太 教授
(臨床心理学専攻と兼任)
教育心理学

宮崎 弦太 教授
(臨床心理学専攻と兼任)
社会心理学

山本 政人 教授
研究科委員長
(臨床心理学専攻と兼任)
発達心理学

教員の詳細はこちら▶



臨床心理学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（臨床心理学）

博士後期課程：博士（臨床心理学）

▶ 臨床心理学専攻の特長

本専攻は、日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院として、高度な専門性を持つ臨床心理士を養成しています。熟練臨床心理士とのペアワークやスーパービジョンによって実践経験を深めるプログラムを中核として、心理臨床家としての基本姿勢をしっかりと身につけていきます。教員陣は精神分析や遊戯療法など多彩な技法に精通し、児童から老年期まで幅広い領域を網羅。毎週実施するケースカンファレンスでは、そうした教員陣と全院生が一堂に会して活発にディスカッションすることで、臨床的視点を多角的に養っていきます。医療・教育・福祉現場での学外実習や、第一線で活躍する講師陣による特論講義も充実しており、理論と実践の両面から、現場に強い臨床の専門家を育成する環境が整っています。

▶ 臨床心理学専攻の概要

本専攻では、心理専門職への第一歩として、日本臨床心理士資格認定協会よりA認定評価を受けた学内「臨床心理相談室」による、地域に開かれた実習活動を中核に据え、実践的な学びと研究活動を行っています。院生は、最初の半年で理論的な基礎を固めた後、夏休み前後から医療・福祉・教育の外部施設で現場実習を行い、後期からは同相談室で熟練者とのペアワークによる遊戯療法などの事例担当が始まります。

院生への指導にあたっては、児童期から老年期まで幅広い領域を網羅する実務家教員が集い、指導教員として院生1名に対し3名が担当するほか、4名の専任教員が共同で全員を担当。学外のスーパーバイザーなど多様な専門性を持つ臨床家との出会いを含め、入念な指導体制を敷いています。これにより、2年間で心理療法的面接やアセスメント、心理検査の施行と解釈に関する実践的訓練を積み重ね、臨床家としての基本姿勢を磨いていきます。

研究環境の充実にもこだわり、約10台のPCを備えた共同研究室や8室の実験室、約2万冊の蔵書と和洋計260誌以上の専門誌を備えた書庫が、各自の研究を強力に支えています。

資格取得に関しては、臨床心理士と公認心理師の2資格に対応するカリキュラムを整備。学部教育と連動し、精神分析や遊戯療法など多様な技法修得を目指しながら、国家資格化の流れにもいち早く対応した高度な教育を提供します。

修了後の主な進路は、国家公務員試験や地方公共団体心理職試験に合格して心理職に就く者、臨床心理士や公認心理師の資格を取得して教育センターや病院・クリニックに勤める者がいます。また、博士後期課程への進学者が増加しています。

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

西東京市教育相談室／安田学園／神奈川県児童相談所／品川児童相談所／椋山女学園大学学生相談室／ジャパンEAPシステムズ／あんクリニック／めぐろ学校サポートセンター／青梅市教育相談所／小平市立小学校スクールカウンセラー

■博士後期課程

学習院大学学生相談室／杉並学園／星美ホーム／東洋英和相談室／武蔵大学学生相談室／成増メンタルクリニック／西東京市教育相談室／青山学院大学／学習院大学／神奈川大学

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

■博士後期課程

- ・親子関係が子どものソーシャルサポート獲得に及ぼす影響
- ・愛着の世代間伝達が子どもの母性意識に及ぼす影響について
- ・投影法にあらわれる解離性体験
- ・箱庭療法における異物の意味について
- ・風景構成法と死生観についての一考察
- ・親密な二人関係と治療関係との比較
- ・心理療法における言葉の力
- ・自己の在り方と抑うつ・不安との関連
- ・仮想的有能感と攻撃性との関連について
- ・「ひきこもり」からの回復期の心理療法に関する研究
- ・スティグルから生まれる物語生成過程の検討
- ・社会人におけるアレキシサイミア傾向と夢との関連について
- ・内的対象喪失からの回復過程について
- ・成人前期女性における身体的症状へのフォーカシング適用の試み
- ・小学校1年生児童におけるS-HTP 法表現の変化について

▶ 設置科目

博士前期課程・後期課程授業科目

臨床心理学特論	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
臨床心理面接特論	精神医学特論Ⅰ（保健医療分野に関する理論と支援の展開）
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	精神医学特論Ⅱ
臨床心理査定演習Ⅱ	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
臨床心理基礎実習	老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）
心理実践実習Ⅰ	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	産業・労働心理支援特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）
臨床心理実習Ⅱ	認知心理学特論Ⅰ
投映法特論	社会心理学特論Ⅰ・Ⅱ
心の健康教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）	教育心理学特論Ⅰ
心理療法技法論（心理支援に関する理論と実践）	発達心理学特論Ⅰ
心理療法特論Ⅰ・Ⅱ	心理学研究法特論Ⅰ・Ⅱ
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	

指導教員および研究分野など

大山 泰宏 教授 心理臨床学、精神分析的な心理療法、臨床心理学の言説研究	川寄 克哲 教授 臨床心理学、深層心理、イメージと転移	北山 純 教授 臨床心理学、心理療法、高齢者の心理臨床	藤巻 るり 教授 臨床心理学、発達障害児の心理臨床
吉川 真理 教授 臨床心理学、心理療法とその習熟過程、心理査定、スクールカウンセリング	伊藤 忠弘 教授 (心理学専攻と兼任) 社会心理学、教育心理学	今井 久登 教授 (心理学専攻と兼任) 認知心理学、実験心理学、認知科学	篠ヶ谷 圭太 教授 (心理学専攻と兼任) 教育心理学
宮崎 弦太 教授 (心理学専攻と兼任) 社会心理学	山本 政人 教授 研究科委員長 (心理学専攻と兼任) 発達心理学		

教員の詳細はこちら▶



教育学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（教育学）

博士後期課程：博士（教育学）

▶ 教育学専攻の特長

本専攻の最大の特長は、激動する現代の教育環境に対応し、未来を切り拓く「未来志向型」の教育研究にあります。従来の知識伝授型から学習者中心の学びへの転換、そして教師に求められるファシリテーターとしての役割の変化を正面から捉え、高度な専門性と実践力を備えた人材を育成します。教育の在り方そのものを問い直す変革意識の高い教授陣が揃っている点も、本専攻ならではの魅力です。また、独自の「教職専門性基準」を設け、教育学・学習科学の体得から学校経営への参画、地域社会との協同まで、多角的な視点で教育の質を向上させる専門家を目指します。変化を恐れず、新たな教育の形を共に創造していく熱意ある探究者を求めています。

▶ 教育学専攻の概要

本専攻では、教育制度の変容や科学技術の進展を見据え、現代的な教育課題を多角的に探究するテーマを取り扱っています。持続可能性、多文化共生、市民性教育といった現代的課題を担い、地域社会や他職種の専門家と協働して教育の創造的革新を推進できる能力を養います。

カリキュラムは「教育基礎学」「教育実践学」「教育創造」の3コースをコアとして構成しています。これらは単なる領域区分ではなく、実際の学修においてはコースを越境して総合的に履修する形を取ることができます。具体的には、教職専門の理論的基礎を固める「概説」、テーマを深く掘り下げる「特殊研究」、そして全体の3分の1以上の単位数を占める「事例研究」を柱としています。この事例研究を重視する方針は、専門家教育の核心が「理論と実践の統合」にあるという考えに基づいています。

教員構成については、古い体質に捉われず、未来の学校教育のあるべき姿を追求する変革意識の旺盛な教授陣を揃え、少人数教育の特性を活かし、学生と教員が対等な立場で議論し、互いに探究を深められる学修環境を実現しています。

修了後の進路としては、高度な専門性を備えた初等中等教育の教師はもちろん、大学院レベルでの教育研究をリードする研究者、あるいは教師教育を担う指導的立場など、教育現場や研究機関におけるリーダーとして活躍する道などがあります。いずれも、理論に裏打ちされた実践力を持つ「教育のスペシャリスト」として、国内外の教育改革を牽引する人材を社会に送り出しています。

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

東京都公立小学校／埼玉県公立小学校／神奈川県公立小学校／聖心女子学院初等科／瀧野川女子学園中学高等学校／三菱総合研究所／千葉市子ども交流館保育園／東京書籍株式会社／学習院大学人文科学研究科教育学専攻 等

■博士後期課程

学習院大学／慶應義塾大学／埼玉学園大学／広島大学／早稲田大学 等

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- ユルゲン・ハーバーマスの公共圏論の現代的採光性
—市民社会・コミュニケーション・討議—
- 外来種を用いた教育の現状と課題
—小学校の教科書と教員への調査について—
- 小学国語科における音読教育の理論と実践の分析
- 地域における文化芸術活動の新たな展望
—子どもたちへのアウトリーチ活動を通して—
- 県と市町村の関係性からみる幼保小接続・連携の政策分析
—埼玉県西部地域の事例から—
- 1-2歳児は水とどのように関わっているか
—園における自然発生場面の微視発生的分析—
- 教育における能力主義批判論と学校選択制度論の接点を求めて
—黒崎勲における教育行政＝制度論の再検討—
- 教育の公正性に向けた小中学校におけるICT活用の分析
—児童生徒間のICT利用能力を中心に—
- 〈第二の親子関係〉の誕生のための聴き取られ、語るということ セルフヘルプ・グループ「家族の宗教で困っている人のミーティング」を通じた援助実践から
- 学校教育における「ケアリングとしての指導」の探求—学校改革に臨む中学校における事例を手がかりにして
- 長期放送アニメにおける家族表象の研究
—直系家族にみるジェンダーの考察—
- 日本の教育実践史における外国人排斥問題とxenophobia
—1950年代以降に掲載された教育実践記録の分析をふまえて—
- 教育人間学における「超越」概念をめぐる諸問題
—西平直の「自己超越」概念の到達点に焦点をあてて—
- 高等学校情報科における教師のカリキュラム解釈過程の研究
- 幼児造形におけるデジタル技術の活用
—創造的な表現を支える過程に焦点を当てて—
- 5歳児の協働活動における「見立て」に保育者はいかに応答しているか
—実践における創造的応答性の質的研究—

■博士後期課程

- アジアにおける授業研究(レッスンスタディ)の研究
—香港とインドネシアの協議会談話を比較して—
- 浦辺史の「三位一体の保育運動」：保育研究・保育所づくり・労働運動
- カナダのグローバル・シティズンシップ教育(GCE)
—多元的アイデンティティの育成と持続可能性への挑戦—

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

必修科目

修士論文指導

選択必修科目

教育基礎学コース

教育史概説	教育史事例研究 I	教育史特殊研究 I
教師教育概説	教師教育事例研究 I	教師教育特殊研究 I
教育行政概説	教育行政事例研究 I	教育行政特殊研究 I
特別支援教育概説	特別支援教育事例研究 I	特別支援教育特殊研究 I

教育実践学コース

授業研究概説	授業研究事例研究 I	授業研究特殊研究 I
音楽教育概説	音楽教育事例研究 I	音楽教育特殊研究 I
国語教育概説	国語教育事例研究 I	国語教育特殊研究 I
社会科教育概説	社会科教育事例研究 I	社会科教育特殊研究 I
図画工作教育概説	図画工作教育事例研究 I	美術教育特殊研究 I
英語教育概説	英語教育事例研究 I	英語教育特殊研究 I

教育創造コース

算数とICT概説	算数とICT事例研究 I	数学とICT特殊研究 I
体育と健康・スポーツ科学概説	体育と健康・スポーツ科学事例研究 I	体育と健康・スポーツ科学特殊研究 I
理科と環境概説	理科と環境事例研究 I	理科と環境特殊研究 I
生活科と総合学習概説	生活科と総合学習事例研究 I	
総合学習特殊研究 I		
家庭科と食育概説	家庭科と食育事例研究 I	
家庭科と食育特殊研究 I		

専攻共通

教育学特別研究 I 教育学特別演習 I

博士後期課程授業科目

必修科目

博士論文指導

選択必修科目

教育基礎学コース

教育史事例研究 II	教育史特殊研究 II
教師教育事例研究 II	教師教育特殊研究 II
教育行政事例研究 II	教育行政特殊研究 II
特別支援教育事例研究 II	特別支援教育特殊研究 II

教育実践学コース

授業研究事例研究 II	授業研究特殊研究 II
音楽教育事例研究 II	音楽教育特殊研究 II
国語教育事例研究 II	国語教育特殊研究 II
社会科教育事例研究 II	社会科教育特殊研究 II
図画工作教育事例研究 II	美術教育特殊研究 II
英語教育事例研究 II	英語教育特殊研究 II

教育創造コース

算数とICT事例研究 II	数学とICT特殊研究 II
体育と健康・スポーツ科学事例研究 II	体育と健康・スポーツ科学特殊研究 II
理科と環境事例研究 II	理科と環境特殊研究 II
生活科と総合学習事例研究 II	総合学習特殊研究 II
家庭科と食育事例研究 II	家庭科と食育特殊研究 II

専攻共通

教育学特別研究 II 教育学特別演習 II

指導教員および研究分野など

秋田 喜代美 教授
(2028年3月退職予定)
学校教育学、授業研究、
カリキュラム研究

大矢 幸久 准教授
社会科教育、地理教育

笹野 恵理子 教授
音楽教育学、学校音楽文化論、
教科文化論

飯沼 慶一 教授
環境教育、自然教育、生活科教育、
理科教育

小原 豊 教授
算数・数学科教育、情報教育、
STEM教材開発

佐藤 陽治 教授
(2028年3月退職予定)
体育学、健康教育学、運動生理学、
スポーツ科学

伊藤 亜矢子 教授
学校臨床心理学

黒川 雅子 教授
教育法規、教育制度、生徒指導

須田 将司 教授
日本教育史、地域教育史、教育会史

岩崎 淳 教授
国語科教育、古典教育、表現指導

小国 喜弘 教授
社会科教育、インクルーシブ教育

教員の詳細はこちら▶



アーカイブズ学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（アーカイブズ学）

博士後期課程：博士（アーカイブズ学）

▶ アーカイブズとアーキビスト

アーカイブズとは、人間が社会活動の中で生み出した重要な記録と、それを保存・活用するシステムや施設の両方を指す言葉です。これは単なる過去の遺物ではなく、自由で開かれた社会において、権利の証明や組織管理、文化・歴史の継承に欠かせない知的資源と言えます。このアーカイブズを専門的に管理・運用する存在がアーキビストです。記録の真正性を守り、人々が確かな情報に依拠して過去を省察し、未来を創造するための回路を社会に生み出す役割を担います。私たちが目指すのは、諸外国に比べ遅れを取ってきた日本のアーカイブズ環境を、専門職養成を通じて抜本的に変革することです。行政、企業、大学などあらゆる場において、記録を体系的に守るプログラムを構築できるアーキビストを育成します。

▶ アーカイブズ学専攻の特長と概要

日本では1987年制定の公文書館法により専門職の設置が定められました。養成体制の不整備から、その確保は長らく地方自治体の努力義務に留まってきました。本専攻は、この現状を打破すべく、国内のアーカイブズ関係諸団体や国際アーカイブズ評議会（ICA）との学術交流、長年にわたる教育議論の末、日本初の大学院課程として誕生しました。

私たちは、アーカイブズ学の理論研究を深化させる研究者と、高度な実務能力を備えた専門職を育成し、日本の記録管理制度に実体を与えることを目指しています。そのため、行政・企業等の現職者や司書・学芸員、デジタル情報基盤の構築を志す社会人を積極的に受け入れ、多様な知が交差する場を提供しています。

教育課程においては、ユネスコや諸外国のガイドラインを分析し、国際標準に合う内容としています。「コア科目」では、記録の認識論から管理技法、デジタル時代の課題までを体系的に学び、特にアーカイブズ管理及びデジタルアーカイブズについての演習科目は、現場における実践力養成を重視しています。「学際科目」では図書館・博物館情報学との連携から広い視野を養い、「応用科目」では2回にわたる2週間の施設での実習を通じて、キャンパスでの学びを実社会へ適用する術を体得します。

資格制度への対応も進めており、本専攻の履修により「准認証アーキビスト」の要件を満たし、さらに研究を進めて一定の実務経験を経ることで「認証アーキビスト」の資格取得が可能です。

修了後は、公文書館や大学・企業史料室等の専門職、あるいはアーカイブズ学を牽引する教育・研究者として、未来の情報基盤を創造的に切り拓くことが期待されています。

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

独立行政法人国立公文書館／東京大学文書館／東京都公文書館／埼玉県立文書館／大阪府立公文書館／豊島区役所／つくば市役所／日本赤十字社／立教大学共生社会研究センター／ワンビシアークイブズ

■博士後期課程

日本銀行金融研究所アーカイブ／京都大学大学図書館／大仙市アーカイブズ／江東区役所／戸田市役所／渋沢栄一記念財団／静岡市歴史博物館／広島大学原爆放射線医学研究所／国立武蔵野学院図書資料室／目白大学人間学部

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- ・近現代建築物の維持管理に関する組織記録のアーカイブズ記述と管理
—朝香宮邸を事例として—
- ・自治体行政文書としての写真管理に関する基礎的研究
—千葉県文書館「旧広報課所蔵写真資料」概要調査を事例として—
- ・大学アーカイブズの体制構築に向けた一考察
—聖心女子大学50年史編纂事業を事例に—
- ・家庭裁判所の記録保存に係る基礎的研究
—事件記録等保存規程をめぐって—
- ・アートプロジェクト実施団体のアーカイブズ構築
- ・災害被災地域の学校資料の特性とアーカイブズ化に関する基礎的研究
—福島県大熊町立大熊中学校資料を事例に—
- ・近現代日本において二国交流事業に携わった法人の組織と資料の伝来
—公益財団法人日独協会所蔵資料を例に—
- ・漆芸家の個人文書の整理及び検索手段に関する基礎的研究
—東京芸術大学所蔵「松田権六関係資料」を事例として—
- ・資料研究「外交史料編纂事業ニ就テ」（1939年4月）翻刻と解題
- ・印刷工房資料におけるデザイン・アーカイブズ構築の試み
—「嘉瑞工房資料」の編成と記述を事例として—
- ・旧公園のアクセスに関する研究
—旧南埼玉郡所久喜村の田畑一筆限絵図を事例に—
- ・近代愛媛県庁文書の基礎的研究
—アーカイブズとしての管理のために—
- ・国立大学理学部の動物学関係記録資料群の処分と保存
- ・政治家の個人アーカイブズの構造と編成に関する一考察
—牧野伸顕関係文書の公的性格に着目して—

■博士後期課程

- ・台湾総督府文書のアーカイブズ学的研究
- ・米国型記録管理システムの形成とその日本的展開
- ・日本におけるフィルムアーカイブ活動の歴史に関する研究
- ・日本における戦前期統治機構の文書管理の基礎的研究
—近代的アーカイブズ制度成立への歴史的な前提—
- ・社会的養護における記録管理とケアリーヴァーの記録へのアクセス
- ・米国型建築レコード整理法とその日本への応用に関する研究
- ・漫画家の活動記録とアーカイブズ管理に関する研究
- ・アーカイブズ・アクセス制度に関する日本と中国の比較研究
- ・戦後日本企業のアーカイブズ構築に関する基礎的研究
—山一証券を事例として—
- ・日本における政府映画の管理に関する研究
—日米の制度と実践の比較分析を通して—

▶ 設置科目

博士前期課程・後期課程授業科目（共通）

【コア科目】

アーカイブズ学概論Ⅰ・Ⅱ
 アーカイブズ学理論研究Ⅰ（アーカイブズとアーキビストの歴史）
 アーカイブズ学理論研究Ⅱ（海外文献講読）
 記録アーカイブズ研究Ⅰ～Ⅲ（日本および東アジアの記録とアーカイブズ）
 アーカイブズ管理研究Ⅰ（記録管理法制）
 アーカイブズ管理研究Ⅱ（記録管理・レコードキーピングの理論と実践）
 アーカイブズ管理研究Ⅲ（記録の保存と修復）
 アーカイブズ管理研究Ⅳ（視聴覚アーカイブ）
 アーカイブズ管理演習（整理記述の理論と実践）
 デジタルアーカイブズ演習（情報科学の適用と実践）
 デジタルアーカイブズⅠ・Ⅱ（システムデザインとサービスの構築）

【学際科目】

情報資源論Ⅰ・Ⅱ（図書館情報学／博物館情報学／歴史編纂とアーカイブズ）

【応用科目】

アーカイブズ学演習
 アーカイブズ実習



国内研修旅行



授業風景（@東1号館14階 保存修復実習室）

指導教員および研究分野など

久保山 哲二 教授
 計算アーカイブズ学
 情報科学（機械学習・データマイニング）

下重 直樹 教授
 記録・アーカイブズ研究
 記録管理制度論

武内 房司 教授
 （史学専攻と兼任／2027年3月退職予定）
 記録・アーカイブズ研究

千葉 功 教授
 （史学専攻と兼任）
 記録・アーカイブズ研究

保坂 裕興 教授
 アーカイブズ管理論
 アーカイブズ学演習

教員の詳細はこちら▶



身体表象文化学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（表象文化学）

博士後期課程：博士（表象文化学）

▶ 身体表象文化学専攻の特長

学習院大学大学院の身体表象文化学専攻は、従来の文学や言語中心の学問では十分に捉えきれなかった「身体」と「イメージ」を軸に、現代文化を横断的に研究する新しい専攻です。演劇、映画、マンガ、アニメーションといった表象芸術を相互に関連づけ、生身の身体やキャラクターが社会やメディア、産業に与える影響や文化的意味を探究します。さらに、身体表象と社会のジェンダー観との関係に注目し、ジェンダー理論を用いてその作用や変容を分析します。言語や地域、既存の専門分野を越えて、身体を媒介とする文化を幅広く、かつ奥行きをもって学べる点が本専攻の大きな特長です。

▶ 身体表象文化学専攻の概要

身体表象文化学専攻は、舞台芸術・映像芸術・マンガ／アニメーション芸術・ジェンダー表象の四分野を柱とし、身体とイメージをめぐる現代文化を総合的に研究する専攻です。学生はこれら四分野の中から自身の関心に応じた具体的な研究対象を選択し、理論と実践の双方を踏まえた研究を行いながら、修士論文および博士論文の執筆に取り組みます。舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーション芸術、ジェンダー表象の各分野には、「演習」と「批評研究」という二種類の科目が設けられています。演習科目では、各専門分野における歴史や理論、作品分析の方法など、研究の基盤となる基本的知識を体系的に習得します。一方、批評研究科目では、それらの知識を応用し、作品や表象を多角的に読み解く批評的思考力や表現力、実践的な批評技法の修得を目指します。さらに本専攻では、身体表象を支える制度や産業、制作現場のあり方に目を向ける「表象文化制度論演習」も設置しています。これにより、理論的分析にとどまらず、現場からの視点を踏まえた、より具体的で広い視野から身体表象文化を捉えることが可能になります。本専攻は、演劇、映画、マンガ、アニメーション、ジェンダー表象といった領域において批評研究活動を担う人材を体系的に育成する、全国的にもきわめてユニークな教育機関です。修了後は、研究者や批評家としてのみならず、国際的な視点からこれらの文化領域について情報発信を行う人材としての活躍が期待されています。

▶ 修了後の主な進路

■教育機関

学習院大学／麻布大学／跡見学園女子大学／慶應義塾大学／啓明大学校／専修大学／自治医科大学／城西国際大学／浙江樹人大学／玉川大学／東京大学／東京工芸大学／フェリス学院大学／明治大学／立教大学／早稲田大学／日本外国語専門学校／日本健康医療専門学校／上海日本人学校高等部／同濟大学(中国・上海)

■その他

アンステイチュ・フランセ東京／川崎市市民ミュージアム／国立新美術館／Shengqu Games／株式会社寿限無／松竹株式会社／新国立劇場運営財団／株式会社SPOON／東京ステイサービス株式会社／フランス大使館／ミネルヴァ書房／株式会社パルコ／株式会社和光／漫画家／翻訳業

▶ 大学院生の研究テーマ

■博士前期課程

- アメリカ映画における日本人表象
- 実相寺昭雄論
- 今敏のアニメーション作品における「演じる女性」の表象
- イングマール・ベルイマン研究
- 是枝裕和作品研究
- セックスワークとその言説・表象
- テニスマンガ「ベイビーステップ」研究—そのリアリズムに着目して—
- 新海誠研究—背景に生命を吹き込むモノログと音の技法—
- インターネット文化における「メンヘラ」現象—女性の周縁的アイデンティティ—
- 映画における木蘭詩の変容
- 「美容整形の物語」をめぐる言説空間とネオリベラリズムの主体の形成—YouTube番組「整形サバイバル」の分析—
- BLドラマの持つ社会的影響力の可能性—日台BLドラマの制作・放送システムと描写・物語内容の比較を通して—
- 「千と千尋の神隠し」における姿の変化と魔法表現の分析
- アダプテーションにおける提示情報の再編成とキャラクター像の更新—2.5次元舞台を中心に—
- マンガのナラトロジー

■博士後期課程

- 空間創造と位相の身体—オスカー・シュレンマーの舞台芸術理論
- マンガ版『風の谷のナウシカ』における生成論的研究—コミックス成立時における改稿から見た作品分析
- 日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象
- 映画における屠畜・食肉の表象—フランスとアメリカの作品の検討を中心に
- 19世紀西洋演劇におけるジャポニズム—「日本」の表象の変遷
- 近代視覚文化としてのマンガ—その文化史的位置づけと美学的意義について
- フランスにおけるロマンティック・バレエの隆盛と衰退
- ポール・クロデル研究:リズム演劇構想の成立と展開
- 〈ギャグマンガ〉、用語の誕生とジャンル成立
- 物語論から再考するパラアスリートの表象:「他者化」から「隣人化」へ
- 2.5次元舞台のファンコミュニティ研究

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

舞台芸術批評研究
 映像芸術批評研究 A・B
 マンガ・アニメーション芸術批評研究 A・B
 ジェンダー表象批評研究
 舞台芸術文化論演習 A・B
 映像芸術文化論演習 A・B
 マンガ・アニメーション芸術文化論演習 A・B
 ジェンダー文化論演習
 身体表象文化史演習
 表象文化制度論演習 A・B
 修士論文指導

博士後期課程授業科目

舞台芸術批評研究
 映像芸術批評研究 A・B
 マンガ・アニメーション芸術批評研究 A・B
 ジェンダー表象批評研究
 舞台芸術文化論演習 A・B
 映像芸術文化論演習 A・B
 マンガ・アニメーション芸術文化論演習 A・B
 ジェンダー文化論演習
 身体表象文化史演習
 表象文化制度論演習 A・B
 博士論文指導



人文科学研究科

身体表象文化学専攻

指導教員および研究分野など

佐々木 果 教授
 マンガ・アニメーション芸術

水野 雅司 教授
 (外国語教育研究センターと兼任)
 映像芸術

須藤 健太郎 准教授
 (フランス文学専攻と兼任)
 映像芸術

田丸 理砂 教授
 (ドイツ語ドイツ文学専攻と兼任)
 ジェンダー表象

中野 春夫 教授
 (英語英米文学専攻と兼任)
 舞台芸術/身体表象文化史

教員の詳細はこちら▶



物理学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（理学）

博士後期課程：博士（理学）

▶ 物理学専攻の特長

本専攻は、少人数制ならではの親密な教育環境と、世界に誇る研究レベルの高さを特長としています。時代に流されないユニークで良質な研究を進める伝統が息づいており、教員と学生は共に真理を追究する「仲間」として切磋琢磨しています。学界からの評価も高く、潤沢な研究資金や教員の受賞歴がその実力を証明しています。多くの院生が国内学会や国際会議で成果を発表しており、研究の最前線に主体的に参加することで、高度な専門知識や技術だけでなく、未解決問題に挑む真摯な姿勢を体得できます。物理学を志す若者にとって、研究者としての基礎を築くための最高の環境がここにはあります。

▶ 物理学専攻の概要

理学の根幹をなす基礎物理学から応用分野まで、極めて多彩な研究を展開しています。具体的な研究テーマは、宇宙論や相対論、量子力学の基礎といった理論研究から、ボース・アインシュタイン凝縮、量子暗号、強相関係の量子現象、さらには生体分子モーターのメカニズム解明や宇宙ステーションを利用した物質科学まで、多岐にわたります。

カリキュラムにおいては、これら最先端の知見を学ぶとともに、実験・理論の両面から論理的思考力と実践的なスキルを養うことのできるプログラムを充実させています。専攻の構成は、5つの実験研究室と1つの理論研究グループを軸としており、さらに宇宙航空研究開発機構（JAXA）や理化学研究所（RIKEN）との連携大学院協定により、学外の最新施設で研究に従事することも可能です。

教員構成は、教授7名、准教授1名、助教8名という布陣です。各実験室には教授または准教授と助教を1名ずつ配し、理論グループには教授3名と助教3名が所属しています。小規模ながらも教員一人あたりの学生数が少なく、手厚い指導が受けられるのが魅力です。

設備面でも、量子制御や極低温物理、精密測定を支える高度な装置が整っており、院生が研究の主力としてこれらを自在に駆使して実験を進めています。

修了後の進路は、東芝や日立製作所、NECといった電機メーカーをはじめ、野村総合研究所などのコンサル・情報通信業、さらには経済産業省や産業技術総合研究所などの公的機関まで幅広く、修得した高度な課題解決能力を武器に、社会の第一線で活躍しています。

▶ 修了後の主な進路

■ 博士前期課程

三菱電機／国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構／国立研究開発法人産業技術総合研究所／東京電力ホールディングス(株)／東芝デジタルソリューションズ(株)／富士フイルムビジネスイノベーション(株)／(株)大林組／データアナリティクスラボ(株)／(株)レイヤーズ・コンサルティング／日本電気(株)

▶ 大学院生の研究テーマ

■ 井田 大輔 研究室

- ・ 時空の因果構造および位相構造
- ・ 相対論的宇宙論、時空の量子論

■ 宇田川 将文 研究室

- ・ 幾何学フラストレーション系
- ・ 量子スピン液体の素励起

■ 田崎 晴明 研究室

- ・ 量子多体系の非可積分性の証明
- ・ 量子スピン系におけるトポロジカル相転移

■ 西坂 崇之 研究室

- ・ 磁性細菌における走磁性の操作
- ・ バクテリアのらせん構造と運動特性の関連
- ・ 回転分子モーターF1-ATPaseのエネルギー変換メカニズムの解明

■ 平野 琢也 研究室

- ・ 87Rbのボース・アインシュタイン凝縮
- ・ 連続変数の量子暗号
- ・ パルス光の量子エンタングルメント

■ 町田 洋 研究室

- ・ 強相関係の特異な量子凝縮現象
- ・ 絶縁体の極低温熱電現象

■ 松本 伸之 研究室

- ・ 巨視的な重い振動子の量子制御
- ・ 量子限界感度を備えた慣性センサーの開発

■ 渡邊 巨人 研究室

- ・ 国際宇宙ステーションを使用した物質科学研究
- ・ 浮遊法による高温融体の熱物性測定

■ 徳川 直子 研究室(連携大学院(宇宙航空研究開発機構))

- ・ 航空機の摩擦抵抗低減に関する研究
- ・ 境界層流れの層流-乱流遷移の現象解明に関する研究

■ 田中 拓男 研究室(連携大学院(理化学研究所))

- ・ 大規模電磁界シミュレーションを利用したメタマテリアルの構造設計
- ・ メタマテリアルの自己組織化形成法の開発とデバイス応用

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

物性物理学 I・II・III・IV・V・VI	応用物理学 I・II・III・IV・V
核物理学 I・II・III・IV	化学物理学 I・II・III・IV
基礎物理学 I・II	物理学輪講 I
数理物理学 I・II・III・IV	物理学研究 I

博士後期課程授業科目

物性物理学 I・II・III・IV・V・VI	応用物理学 I・II・III・IV・V
核物理学 I・II・III・IV	化学物理学 I・II・III・IV
基礎物理学 I・II	物理学輪講 II
数理物理学 I・II・III・IV	物理学研究 II

指導教員および研究分野など

井田 大輔 教授 相対論、宇宙論	宇田川 将文 教授 物性物理学理論	田崎 晴明 教授 理論物理学、数理物理学	西坂 崇之 教授 生物物理学
平野 琢也 教授 研究科委員長 量子光学	町田 洋 教授 物性物理学実験	松本 伸之 准教授 量子計測・制御	渡邊 匡人 教授 結晶物理工学
徳川 直子 客員教授 (連携大学院) 流体力学	田中 拓男 客員教授 (連携大学院) ナノフォトニクス		

教員の詳細はこちら▶



化学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（理学）

博士後期課程：博士（理学）

▶ 化学専攻の特長

本専攻は、無機・物理・有機化学の3系統に分かれた9つの研究室を擁し、分子レベルの微視的視点から地球規模の現象まで、極めて幅広い領域を網羅しています。大きな特長は、教授・助教のきめ細かな指導のもと、少人数制で展開される質の高い研究環境です。マニュアルのない未知の課題に挑むプロセスを通じて、論理的思考力と確かな研究スキルを養います。また、学外との交流も非常に盛んで、独自の共同プロジェクトや企業との連携研究も活発に行われています。国内学会のみならず、国際学会での発表機会も多く、世界を舞台に自らの成果を発信できる点も魅力です。伝統に裏打ちされた深い学識と最先端の研究テーマに対する探求心が共鳴する環境で、未来を切り拓く化学者を育成します。

▶ 化学専攻の概要

物質の根源を探究し、新たな価値を創造するための多様な研究テーマを展開しています。研究対象は「分子の振る舞い」というミクロな視点から、「地球の不思議」というマクロな領域まで多岐にわたり、化学の全領域を俯瞰できるカリキュラムが整っています。

専攻の構成は、無機化学系、物理化学系、有機化学系の3系統に分かれています。研究室は9つあり、各研究室に教授1名、助教1名、そして数名の大学院生と5~7名の学部4年生という少人数のコミュニティの中で各自専門性を深めていきます。この緊密な組織構成により、学生一人ひとりが指導教員から「適切な指導」を直接受けられることができ、最高水準の研究設備をフルに活用しながら、自らの努力によって成果を得る喜びを実感できる環境が整っています。

研究室間や他大学との交流も盛んであり、学術的な探究にとどまらず、研究成果を社会に還元すべく企業との共同研究も積極的に行っています。当大学院での「マニュアルなど存在しない未知の領域での研究」への挑戦を通じて培われる高度な専門性と課題解決能力は、産業界からも高く評価されています。

修了後の進路は、医薬品や化学、精密機器といった製造業を中心に多方面に広がっています。近年の主な実績としては、製薬・食品関連企業（東和薬品、協和キリン等）や、電機・光学メーカー（日東電工、キャノン、セイコーエプソン等）、住宅設備メーカー（TOTO、LIXIL等）、さらに全日本空輸（ANA）などのサービス業への進出や、オルガノ、リガク、日本分光といった専門性の高い技術職など、化学の素養を活かして社会の第一線で活躍する人材を輩出しています。

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

AGC(株)／TOPPAN(株)／ニチアス(株)／古河電気工業(株)／東洋インキSCホールディングス(株)／日本化学工業(株)／日本新薬(株)／キャノン電子(株)／京セラ(株)／東京エレクトロン(株)

■博士後期課程

分子科学研究所／東京大学／(株)堀場製作所／田辺三菱製薬／理化学研究所

▶ 大学院生の研究テーマ

■秋山 隆彦 研究室

- キラルリン酸を用いた不斉触媒反応の開発
- 光とプレンステッド酸を組み合わせた新たな触媒反応の開発
- 新規なプレンステッド酸触媒の開発
- 新たなラジカル反応の開発

■稲熊 宜之 研究室

- 新規複合酸化物およびフッ化物の常圧・高圧合成と誘電性および磁性
- 新規酸フッ化物および酸化物等複合アニオン化合物の合成と機能開拓
- リチウム電池の活物質およびリチウムイオン伝導性固体電解質の探索
- 可視および紫外発光無機蛍光体の探索と発光機構の解明

■岩田 耕一 研究室

- 時間分解分光法による超高速化学反応の観測と機構解明
- フェムト秒時間分解分光法の方法論開発とソフトマターの構造・動力学観測
- 生体膜中で起こる化学反応の機構解明

■大野 剛 研究室

- 無機質量分析計による高精度同位体分析法の開発と古環境解読への応用
- 重金属元素の元素比・同位体比を用いた環境解析法の開発
- 微小領域同位体分析法の開発と放射年代測定への応用
- 福島原発事故に関連する環境放射能研究

■狩野 直和 研究室

- 新種の結合・官能基・化学種の開発
- 有機典型元素化合物の組合せによる小分子の活性化
- 不飽和化学種の合成と反応開発への利用
- 典型元素化合物の性質を利用した有機反応開発

■草間 博之 研究室

- アシルシラン類の光化学的特性を活かした新規分子変換手法の開発
- 官能基選択的有機光反応のための新規触媒系の構築
- 光および遷移金属化合物組合せによる新規反応活性種の創成と反応
- 天然有機化合物の全合成

■梶谷 浩 研究室

- ケイ酸塩および酸化物の高圧高温相平衡
- 地球マントル鉱物の熱量測定による熱化学データの決定
- 熱力学的手法を用いた地球内部物質の高温高圧下における安定性の検討
- 高圧ラマン分光測定を利用した非調和振動効果の推定

■河野 淳也 研究室

- 液滴分子線から気相単離した生体分子の分光観測
- 液滴衝突による溶液反応の観測
- 共振増強効果を利用した液滴のラマン分光法の開発

■齊藤 結花 研究室

- 近接場光学顕微鏡を用いたナノスケール分光イメージング
- 効率的な光電場増強効果を誘起するナノ材料の探索
- 溶液中に含まれた微量分子の高感度検出に向けたシングルパルスSERS法の開発

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

無機化学特論 I・II・III	化学物理学 I・II・III・IV
分析化学特論 I・II	実践化学英語
有機化学特論 I・II・III・IV・V	化学特別演習 I
物理化学特論 I・II・III・IV・V	化学特別研究 I

※ 博士前期課程においては、あらかじめ指導教授と相談の上、講義選択科目のうち 8 単位以内に限り本研究科所属の他の専攻課程の授業科目をもって代用することができる。

博士後期課程授業科目

無機化学特論 I・II・III	化学物理学 I・II・III・IV
分析化学特論 I・II	実践化学英語
有機化学特論 I・II・III・IV・V	化学特別演習 II
物理化学特論 I・II・III・IV・V	化学特別研究 II

指導教員および研究分野など

秋山 隆彦 教授 有機合成化学	稲熊 宜之 教授 無機固体化学	岩田 耕一 教授 分光物理化学	大野 剛 教授 環境地球化学、分析化学
狩野 直和 教授 有機元素化学	草間 博之 教授 有機合成化学、有機反応化学	糺谷 浩 教授 無機地球化学	河野 淳也 教授 気相溶液化学
齊藤 結花 教授 物性分子化学			

教員の詳細はこちら▶



数学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（理学）

博士後期課程：博士（理学）

▶ 数学専攻の特長

代数・幾何・解析の主要三分野を網羅する研究体制と、研究者を志す者から実社会での活躍を目指す者までを広く支える柔軟な教育体制が、本専攻の特長です。学部3年次から大学院へ入学できる「飛び級入試」制度を導入しており、意欲ある学生が早期に専門性を深めることを奨励しています。また、「大学院数学連絡協議会」に加盟していることも大きな強みです。他大学の大学院数学専攻で開講される講義を委託聴講生として受講し、単位を修得することが可能なため、学外の研究者や院生との交流を通じて、より多角的で高度な専門知識を吸収できる仕組みを整えています。

▶ 数学専攻の概要

本専攻では、代数学、幾何学、解析学の各領域に精通した研究者が集い、現代数学の主要なテーマを網羅的にカバーしています。具体的な研究テーマは多岐にわたり、離散群の位相幾何や射影多様体の双有理幾何といった図形の構造を探る研究、保型形式と整数論、代数体のイデアル類群などの数の性質を追究する研究、さらには量子力学の数物理学、グラフ上の作用素のスペクトル解析、19世紀の数学教育史など、多面的なアプローチが可能です。

カリキュラムは、指導教員によるきめ細かな「セミナー」を軸に構成されています。これに加えて、専門知識を体系的に習得するための豊富な講義科目が用意されており、修了に必要な単位を計画的に修得できます。さらに、学外の多様な知に触れる機会として「大学院数学連絡協議会」を通じた単位互換制度があり、加盟する他大学の講義を履修することで、自校の枠を超えた広範な学びを実現しています。こうした研究活動の集大成として、修士論文や博士論文の執筆に打ち込む体験は、論理的思考力や問題解決能力を飛躍的に高めます。

修了後の進路は非常に多彩です。博士後期課程へ進学して研究者を目指す道はもちろん、高度な専門性を備えた高等学校の教員や、理数系出版社への就職など、次世代の教育を担う人材を多く輩出しています。また、一般企業への進路も広がっており、メーカー、金融、保険、データサイエンス分野など、情報化社会の基盤を支える多角的な職種で数学の専門性が高く評価されています。数学という普遍的な言語を武器に、研究の世界から産業界まで、修了生は幅広いフィールドで活躍しています。

▶ 修了後の主な進路

■ 博士前期課程

(学)土浦日本大学学園／(株)日本コンピューター技術／(株)日立ソリューションズ／東日本電信電話(株)／富士通(株)／(株)臨海／(株)NTTドコモ／東芝デバイス&ストレージ(株)／東京都庁

▶ 大学院生の研究テーマ

- 保型形式と整数論 青木 宏樹
- 離散群の位相幾何 大鹿 健一
- 19世紀イギリスの数学教育 岡本 久
- 射影多様体の双有理幾何 高木 寛通
- 代数体のイデアル類群 中野 伸
- 量子力学の数物理学 中村 周
- グラフ上の作用素のスペクトル解析 樋口 雄介
- 測地線とヤコビ場の幾何学 細野 忍
- リーマン多様体上の解析学 山田 澄生

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

代数学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	数理学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
幾何学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	数学特別講義Ⅰ・Ⅱ
解析学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	数学特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
確率論及統計学特論Ⅰ・Ⅱ	

※博士前期課程においては、あらかじめ指導教授と相談の上、講義選択科目のうち4単位以内に限り本研究科所属の他の各専攻課程の授業科目をもって代用することができる。

博士後期課程授業科目

代数学特論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	数理学特論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
幾何学特論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	数学特別講義Ⅰ・Ⅱ
解析学特論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	数学研究
確率論及統計学特論Ⅰ・Ⅱ	

指導教員および研究分野など

青木 宏樹 教授 代数学、保型形式	大鹿 健一 教授 位相幾何学、離散群	岡本 久 教授 (2027年3月退職予定) 流体力学、数学史	高木 寛通 教授 代数幾何・代数多様体の分類
中野 伸 教授 数論	中村 周 教授 偏微分方程式、数理物理学	樋口 雄介 教授 離散大域解析学、グラフ理論	細野 忍 教授 複素多様体、 数理物理学 (カラビ・ヤウ多様体)
山田 澄生 教授 微分幾何学、幾何解析			

教員の詳細はこちら▶



生命科学専攻



研究科webサイト

授与する学位

博士前期課程：修士（理学）

博士後期課程：博士（理学）

▶ 生命科学専攻の特長

本専攻は、分子・細胞生物学を共通基盤に、基礎から応用までを網羅する多様な研究を展開しています。2008年の設立以来、化学や物理学の視点を取り入れた学際的なアプローチを重視しており、理学部の枠を超えた柔軟な研究体制を強みとしています。また、ショウジョウバエや植物、微生物、さらにはタンパク質の構造解析など、教員ごとに独自のモデル生物や手法を駆使した最先端の研究を行っている点も特長の一。これら教員陣と学生が一体となって未知の領域へと挑戦することにより、論理的思考力と高度な技術を兼ね備えた、次世代の生命科学リーダー育成を目指しています。

▶ 生命科学専攻の概要

2008年4月に学習院大学理学部化学科、物理学科、生命分子科学研究所で生命科学を研究している4名の研究者と、他大学や他研究所からこの構想に参加した3名の研究者によって開始された本専攻。これに3名の研究者が2009年に加わり、現在の規模となりました。分子生物学・細胞生物学を共通の基盤として、(1)分子生物学、細胞生物学、生物化学、構造生物学など生命現象の本質に迫る「基礎生命科学」、(2)遺伝学、発生学、植物分子生理学、神経生理学など個体や発生を扱う「統合生命科学」、(3)微生物科学など社会実装を目指す「応用生命科学」の3分野で多角的な教育・研究を推進しています。

具体的な研究テーマは多岐にわたり、ショウジョウバエを用いた寿命・老化のメカニズム解明、放線菌由来の創薬研究、中枢シナプスの形成原理、植物のホルモン制御、昆虫と植物の共進化、DNA損傷への耐性獲得、ミトコンドリアの動態制御とパーキンソン病研究など、生命のミクロからマクロまでを網羅しています。

設備面においては、光遺伝学・化学遺伝学技術や高度な構造解析装置など、世界水準の研究を支える環境が整っており、教員と大学院生が密に議論を交わしながら共に研究に邁進できる体制を構築しています。

修了後は、培った生命科学や分析力を活かせるあらゆる分野に進路が広がっています。味の素冷凍食品や日本ハムファクトリー、富士薬品、ナカライテスクといった食品・製薬・化学分野へ進むほか、NTTデータ・アイや富士通、日立システムズなどの情報通信産業、メイテックといった技術サービス業まで、幅広い業界の第一線で多くの卒業生が活躍しています。

▶ 修了後の主な進路

■博士前期課程

日本ジェネリック(株)／(株)ニコン／NECソリューションイノベータ(株)／アクセンチュア(株)／エイツヘルスケア(株)／関西酵素(株)／富士通(株)／(株)ファンケル／岩城製薬(株)／(株)富士薬品

■博士後期課程

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構／国立大学法人広島大学／ハル・サクレー大学／学習院大学／理化学研究所／ミネソタ大学／京都大学

▶ 大学院生の研究テーマ

■安達 卓 研究室

- ・ショウジョウバエにおいて腸ホルモンが寿命・老化を制御するしくみの研究
- ・昆虫前立腺(附属腺)の構造と機能が生殖能力に果たす役割の研究
- ・シモクバエの形態と行動を制御する遺伝子の研究

■岡田 哲二 研究室

- ・視覚を担うタンパク質の高分解能構造解析
- ・タンパク質構造可変性の網羅的解析
- ・タンパク質での結合異性化に関する研究

■尾仲 宏康 研究室

- ・微生物間相互作用と他者認識機構の解明
- ・放線菌の生産するペプチド天然物を基盤とした創薬研究
- ・微生物由来新規生理活性物質の探索

■掛川 渉 研究室

- ・中枢シナプスの形成動作原理の解明
- ・シナプスを標的とした光遺伝学・化学遺伝学技術の開発と応用
- ・記憶・学習の形成および忘却過程の分子的理解と制御

■清末 知宏 研究室

- ・陸上植物のメリステムにおける、ペプチドホルモンの機能解析
- ・LRR型受容体キナーゼのシグナル伝達機構の解明

■嶋田 透 研究室

- ・昆虫(動物)と寄主植物の共進化機構の解明
- ・昆虫における中胚葉の分化を支配する分子機構
- ・キヌレニン経路を中心とした代謝経路の多様性

■菱田 卓 研究室

- ・DNA二重鎖切断に伴う染色体動態制御機構の解析
- ・慢性的なDNA損傷ストレス環境における耐性獲得の分子メカニズムの解析
- ・遺伝子突然変異を誘発する分子メカニズムの解析

■柳 茂 研究室

- ・ミトコンドリアダイナミクスの制御機構の解明
- ・パーキンソン病におけるミトコンドリア機能解析
- ・ミトコンドリアを標的とした創薬スクリーニング

▶ 設置科目

博士前期課程授業科目

分子細胞生物学特論 I・II 応用生物学特論 II
分子細胞生物学特論 IV・V 生命科学特別演習 I (必修)
統合生命科学特論 I・II・III・IV・V・VI 生命科学特別研究 I (必修)

※博士前期課程では、講義選択科目のうち14単位(7科目)を履修しなければならない。ただし、講義選択科目のうち8単位以内に限り、本研究科所属の他の専攻課程の授業科目をもって代用することができる。

博士後期課程授業科目

グローバル生命科学 (必修)
生命科学特別演習 II (必修)
生命科学特別研究 II (必修)

指導教員および研究分野など

安達 卓 教授 動物生理学	岡田 哲二 教授 構造生物学	尾仲 宏康 教授 微生物科学	掛川 涉 教授 神経生理学
清末 知宏 教授 植物分子生理学	嶋田 透 教授 生物遺伝資源学	菱田 卓 教授 分子生物学	柳 茂 教授 病態生化学、ミトコンドリア生物学

教員の詳細はこちら▶



国際社会科学専攻



研究科webサイト

授与する学位

修士課程：修士（社会科学）

▶ 国際社会科学専攻の特長

国際社会においては、SDGsに代表されるような地球規模の課題を解決できる人材が求められています。一方で、将来が予測困難でVUCA (Volatility:変動性 Uncertainty:不確実性 Complexity:複雑性 Ambiguity:曖昧性)と呼ばれる現代においては、そのような課題に一つのアプローチから解決策を見出すことは困難です。そこで本専攻では、社会科学五分野（経済学・経営学・社会学・地域研究・法学）に関する高度な専門知識とデータ分析能力、そしてそれらの成果を国際的な場で発信する能力を駆使し、国際社会の最前線で活躍できる真のプロフェッショナルを育成します。

▶ 国際社会科学専攻の概要

本専攻では、以下の科目群を用意しています。これらの理論と実践を往還するカリキュラムを通じ、国際社会へ現実的な解決策を提示するための総合力を養います。

グローバル市民社会科目群

経済学、経営学、社会学、地域研究、法学に関する専門知識を習得します。

データ分析科目群

データ分析の汎用的なスキルを身に付けるとともに、社会科学の各分野における応用的なスキルを実践的に学びます。例として、経済学分野のマイクロ実証分析や経営学分野のアンケート調査法などがあります。

アカデミック・スキルズ科目群

研究成果を英語で論文にまとめ、国際学会で報告し、国際的な学術誌に投稿する力を養います。

研究指導科目群

習得した専門知識とデータ分析能力を用いて、研究テーマの分析を行います。

▶ 修了後の主な進路

■ 修士課程

2026年4月に新設のため、現時点では実績がありませんが、国際機関や政府・自治体の国際部門をはじめ、コンサルティング会社、商社、銀行、メーカーなど、グローバルな舞台で専門性を発揮し、変革を担うリーダーとしての活躍が期待されます。

▶ 大学院生の研究テーマ

■ 修士課程

2026年4月に新設のため、現時点では実績がありませんが、指導教授と相談のうえ、自由に設定することが可能です。たとえば、以下のようなテーマが想定されます。

- 中国企業対外直接投資の収益とリスク管理に関する研究
- 消費者による国イメージの動的変化のメカニズムに関する研究
—政治経済要因の影響を中心として—
- 消費者の購買回避行動における情報過多の影響メカニズム：ソーシャルメディア疲労と製品関与の視点から
- 企業業績とジェンダーバランスに関する研究
- グラビティモデルを用いた実証研究

▶ 設置科目

修士課程授業科目

▼ 研究指導科目群

研究指導

▼ グローバル市民社会科目群

- Special Studies in International Economic Policy
- Special Studies in International Economics
- Special Studies in Economic Development
- Special Studies in International Marketing
- 国際マクロ経済学特殊研究
- Special Studies in International Accounting and Taxation
- Special Studies in Asian Economics
- 国際イノベーションマネジメント特殊研究
- Special Studies in Health Economics
- Special Studies in Agricultural and Rural Development
- Special Studies in International Human Resource Management
- 人口学特殊研究
- 比較会社法特殊研究
- Special Studies in Development Economics

▼ データ分析科目群

- 国際経済政策論実証分析演習
- International Trade Empirical Study Seminar
- Economic Development Empirical Study Seminar
- International Marketing Empirical Study Seminar
- 国際マクロ経済学実証分析演習
- Accounting Information Systems Seminar
- Asian Economics Empirical Study Seminar
- 国際イノベーションマネジメント実証分析演習
- Health Economics Empirical Study Seminar
- Agricultural and Rural Development Empirical Study Seminar
- International Human Resource Management Empirical Study Seminar
- 人口学実証分析演習
- 比較会社法実証分析演習
- 上級統計学
- 上級質的データ分析法
- 上級計量経済学
- 上級計量社会学
- Development Economics Empirical Study Seminar

▼ アカデミック・スキルズ科目群

- Academic Reading for Graduate Students
- Academic Presentation for Graduate Students
- Data Visualisation and Analysis
- Academic Writing for Graduate Students

指導教員および研究分野など

石川 城太 教授 貿易政策、多国籍企業、貿易と環境	伊藤 匡 教授 国際貿易論、外国直接投資、産業連関分析	乾 友彦 教授 研究科委員長 生産性、経済発展論、国際経済学の実証分析	入江 恵 教授 応用言語学、英語教育、言語学習心理学、研究手法
白井 哲也 教授 国際マーケティング戦略、ビジネスモデルの国際化、消費者アフィニティ	オニール・テッド 教授 英語教授法(TESOL)、言語景観、教育テクノロジー、カリキュラム開発	柏木 昌成 教授 マクロ経済学、国際マクロ経済学	ガルシア・クレマンズ 教授 無形資産、国際会計、国際税法
金 素延 教授 組織行動、国際人的資源管理、比較経営	久保 公二 教授 地域研究(ミャンマー)、アジア経済論、東南アジアの経済と社会	柴田 友厚 教授 経営戦略論、技術経営論、イノベーション経営論、製品開発戦略	関 麻衣 教授 開発経済学、教育の経済学、労働経済学、応用ミクロ計量経済学
玉置 えみ 准教授 社会学、人口学、国際人口移動、家族と健康	趙(小西) 萌 教授 ヘルス・エコノミックス、中国経済、応用計量経済学	星 明男 教授 会社法、証券法、商取引法、国際ビジネス法、法と経済学	マーチャンド・ティム 教授 コーパス言語学、言語教育、eラーニング、タスク中心の教授法
牧田 りえ 教授 開発地理学、ポリティカル・エコロジー、持続可能な生計、農村社会変容	マクレガー・ローラ 教授 英語教育、映画研究、比較文化、広告研究		

教員の詳細はこちら▶



国際文化交流専攻



研究科webサイト

授与する学位

修士課程：修士（国際文化交流）

▶ 国際文化交流専攻の特長

本専攻は修士課程を設置し、「アートマネジメント」「国際協力」「日本学・比較文化」「国際関係・地域研究」の4つのプログラムを用意し、各分野の実務家・研究者を養成します。学芸員や国家公務員などの実務家を多数輩出する一方、研究者の道を歩む修士生もいます。学際的アプローチを重視しており、入学時に決める所属プログラムを超えた科目履修が可能です。国内外の文化施設・国際機関等への研修科目やインターン科目を豊富に提供し、文化交流・国際協力、国際機構分析等をめぐる諸課題の理解・解決と、専門家・実務家として必要な能力の向上を図ります。出願に際して希望すれば、3年以上8年以内の長期履修も認められ、履修計画年数に応じ、修了までに必要な学費の総額が2年で修了する場合と同一になるよう1年あたりの学費が調整されます。

▶ 国際文化交流専攻の概要

「アートマネジメント」プログラム

博物館や劇場をはじめとする、非営利・営利の文化芸術事業のマネジメントに携わる人材を育成しており、修士生は文化芸術の第一線で実務家として活躍しています。教員は各種機関でアートマネジメントの実務経験をもつ専門家で、文化資源、文化経済、文化経営、アーカイブズなど、アートマネジメントの専門家となるために必要な科目を提供しています。

「国際協力」プログラム

地域の自然環境や文化・価値体系への配慮、国際関係への理解など、国際協力に必要な専門知識および能力を養成します。文化遺産の保全と活用、国際協力におけるNGOの役割、国際開発における「制度」問題、食糧をはじめとした資源の理解と利用などについて、実務経験を有する教員が指導を行い、国際協力の分野で必要となる実務知識や技能を横断的に習得できる科目を提供します。

「日本学・比較文化」プログラム

Japanologyの訳語である「日本学」は、広範な学問分野を包摂するきわめて学際的な概念として存立しています。この「日本学」と、境界横断的な方法論である「比較文化」を組み合わせ、日本文化の空間的・地域的多様性、あるいは古代以来の伝統文化に関する問題から現代社会や現代文化の動向に至るまで、時間軸方向においても多様な研究ができる科目を提供します。

「国際関係・地域研究」プログラム

政治経済、外交、安全保障、法律、経営、メディアなど多様な側面から国際社会の構造・プロセスや課題を分析する「国際関係論」と、国家・地域・民族の特質を理解する「地域研究」を結びつけながら、国際社会への本質的洞察力、構造的理解力、多角的視野、動態的把握力を養成します。政治経済関係に留まらず、諸国家・諸民族の接触による文化関係にも知見を深められる科目を提供します。

▶ 修了後の主な進路 ※

■【就職】*は教員採用

アクセンチュア(株)／曙ブレーキ工業(株)／茨城県近代美術館／(株)伊藤園／(学)桜美林学園／国土交通省／国立歴史民俗博物館／在日ルーマニア大使館／三井物産(株)／(株)三越伊勢丹ホールディングス／総務省／(学)千葉学園(千葉商科大学)*／(宗)鶴岡八幡宮／東京23特別区人事委員会／東京都教育委員会*／(学)東海大学(東海大学付属浦安高等学校)*／日本年金機構／(株)ニュー・オータニ／防衛省／(学)法政大学、他

■【進学】

東京大学大学院／お茶の水女子大学大学院／國學院大學大学院、他

▶ 大学院生の研究テーマ ※

■アートマネジメントプログラム

- ・銀座画廊の密集における歴史的変遷～インタビュー調査による考察～
- ・十和田市現代美術館における行政と美術館と地域住民の感覚の差異から見える文化政策の課題
- ・日本舞踊の家元制度の今日的意義と問題点の分析
- ・ファンカルチャーにおける観客の参加型文化
～2.5次元ミュージカルを例に～

■国際協力プログラム

- ・ドイツの歴史教育では第二次世界大戦をどのように扱ってきたか
—ベルリン州の学習指導要領の変遷を巡って—
- ・多文化社会をめざす国際交流の価値と重要性
—異文化理解と共生意識の育みへ向け—
- ・ネパールの識字と教育
- ・我が国政府開発援助の戦略的マネジメントに係わる実態及び課題分析
—海外農業投資及び地球環境問題対応ODAを事例として—

■日本学・比較文化プログラム

- ・「源氏絵」における「後ろ姿」の人物像
—徳川・五島本『源氏物語絵巻』を中心に—
- ・女性の自由 欧米と日本の女性の解放運動とJ.S.ミルのフェミニズム
—「自由論」と「女性の解放」を中心に—
- ・天草崩れにおける「宗門心得違」—布教活動とその慣習—
- ・日本語を訳すことに対するの当惑
—通訳を介したコミュニケーション摩擦について—

■国際関係・地域研究プログラム

- ・ポスト冷戦期における米国の対中認識が日米同盟再確認・再定義に与えた影響
- ・建国初期のアメリカにおける生存戦略の試み
—1790年代前半の中立政策とジェイ条約に至る過程—
- ・社会主義体制下のポーランドにおける宗教を通じての民主化の試み
—ローマ法王ヨハネ・パウロ2世の役割とその成果—

※学習院女子大学大学院 国際文化交流研究科データ

▶ 設置科目

修士課程授業科目

文化マネジメント演習	国際関係分析演習	プロジェクト・マネジメント演習	伝統文化特殊研究
芸術文化演習	国際メディア分析演習	非営利団体演習	現代文化特殊研究
日本学演習	地域社会分析演習	PR演習	比較文化特殊研究
比較文化演習	国際マネジメント演習	文化資料処理法	文化資源情報特殊研究
現代文化演習	国際文化交流研修	統計処理法	日本学特殊研究
国際文化協力演習	海外特別研修	文化政策特殊研究	言語分析特殊研究
国際地域開発演習	インターン研修	文化法特殊研究	文化経営学特殊研究
地域資源開発・利用演習	企画立案	文化経済特殊研究	国際メディア特殊研究
国際開発協力演習	プレゼンテーション	アートマネジメント特殊研究	マーケティング特殊研究
費用便益分析演習	ドラフティング	国際関係特殊研究	情報メディア特殊研究
環境コミュニケーション演習	プロジェクト評価法	地域社会特殊研究	

指導教員および研究分野など

石澤 靖治 教授 国際コミュニケーション論、 米国政治、日米関係	伊藤 由紀子 教授 国際協力、NPO、NGO	今橋 理子 教授 日本美術史（江戸絵画史）、 比較日本文化論、東西博物学史	岩淵 令治 教授 日本近世史
ウィン・グン 教授 ビジネス英語	ウーゴ・ミズコ 教授 国際文化協力、建築学	内野 儀 教授 研究科委員長 表象文化論、 舞台芸術（演劇・舞踊）論	宇都宮 由佳 教授 食文化、生活文化
萱 忠義 教授 応用言語学・英語教育	木村 直恵 教授 日本近代史・文化史	金城 亜紀 教授 経営史	金野 純 教授 歴史社会学・政治社会学・ 東アジア地域研究
工藤 雄一郎 教授 先史考古学、環境考古学	熊谷 英憲 教授 環境科学、地球環境学	クレイ・サイモン 教授 翻訳・通訳学	北川 香子 教授 東南アジア史
越塚 美加 教授 図書館・情報学	佐久間 みかよ 教授 アメリカ文学・文化	櫻井 大三 教授 国際法	櫻井 宏明 教授 国際経済、公共経済、アジア経済
佐藤 琢三 教授 日本語学（現代語の意味論・文法論）	澤田 知香子 教授 英語圏文学・文化・思想	澤田 匡人 教授 感情心理学	武井 彩佳 教授 ドイツ現代史、ホロコースト研究
土屋 有里子 教授 説話文学、日本古典文学	時安 邦治 教授 社会学、社会思想	中島 崇文 教授 中・東欧地域研究	福島 雅子 教授 日本服飾史・染織史
正本 忍 教授 フランス近世史、社会史、法制史	牧野 元紀 教授 博物館学、アーカイブズ学、東洋学	羅 京洙 教授 国際関係論、国際移動論、 東アジア地域研究、現代コリア研究	教員の詳細はこちら▶



教育研究施設

▶ 経済経営研究所

経済経営研究所(GEM)は、1985年に経済学部附属機関として設立されました。活動は、経済学部の専任スタッフが中核となって行っていますが、学外の研究者との共同研究も積極的に実施しています。

GEMは、国内外の研究機関や研究者との交流促進、産業界や官界との連携を担う研究活動にも努め、また、内外の研究者を客員として招聘しています。研究成果は、定期的な出版物により発表するほか、セミナーや国際会議を開催し、社会への還元にも取り組んでいます。現代社会は、経済の運営から企業の経営に至るまで抜本の変革を求めています。こうした要請に応えるべく、GEMは、一層の学際化、グローバル化、実用化を目指す、外部に開かれた研究センターとして活動しています。



▶ 人文科学研究所

2001年4月、設立されました。人文科学に関する共同研究を行うことにより学術の進歩発展に寄与することを目的としています。人文科学全般にわたる共同研究プロジェクトが各分野の枠を越えて生まれ、学際的な研究が行われています。2026年度には5件のプロジェクトが活動しています。その成果を刊行するとともに、研究会・講演会・シンポジウムなどを開催します。プロジェクトのスタッフは、所員である文学部専任教員が中心ですが、人文科学研究科の博士後期課程修了者をはじめ若手の研究者、海外を含めた学外のすぐれた研究者を客員所員に迎えています。また、博士課程在籍の学生も研究補助者としてスタッフに加わっています。毎年、課程博士論文の報告会を開いていますが、2011年度からは若手研究者研究助成も行っています。

▶ 生命分子科学研究所

生命分子科学研究所、通称「生命研」は、1991年4月に設立されました。理学部生命科学科の学部生や自然科学研究科生命科学専攻の大学院生が当研究所で研究しています。もともと基本的な生命分子である核酸とタンパク質や生物の基本単位である細胞の研究を通して、生命現象を分子の言葉で理解することを目標としています。

現在、8つの大きなテーマで研究しています。その内容を簡単に紹介します。

(1)日本の伝統的な遺伝資源であるカイコを用いたゲノム構造と遺伝子機能生物進化の研究、(2)細胞および内部小器官の表面を形成する脂質二重膜中で情報伝達など重要な役割を担う膜タンパク質、特に視覚機能に関与する光受容体の構造・機能に関する研究、(3)新規ケミカルツールと電気生理学・マウス行動学を駆使して、記憶の形成過程やさまざまな神経系疾患の病態発現を理解する脳神経科学研究、(4)ショウジョウバエ等の昆虫を用いた遺伝子解析による、個体・臓器・組織・細胞レベル間の相互作用についての研究、(5)エネルギーを産生する重要なオルガネラであるミトコンドリアと、老化疾患との関連を分子レベルで解明する研究、(6)モデル植物の環境応答と形態形成に関する分子遺伝・生理学的研究、(7)酵母や大腸菌を用いたDNA損傷ストレスに対する相同組換えを介した耐性獲得の分子メカニズムについての研究、(8)抗生物質を作る土壌微生物である放線菌の細胞内での抗生物質合成経路の解明や抗生物質の自然環境中での役割を明らかにする研究。



▶ 史料館(霞会館記念学習院ミュージアム)



リニューアルオープン記念展出品
「蘇芳委立通地文蝶牡丹」上二文一隔
織物社「大正」昭和戦前期



リニューアルオープン記念展出品
「白樺」明治四十三年「大正」十一年
(一九一〇)一九三三

史料館は、史料の収蔵・整理・保存と公開を目的として1975年に開設されました。2025年3月には、前川國男建築の旧大学図書館に移転し、「霞会館記念学習院ミュージアム」の施設名でリニューアルオープンしました。大学内の研究施設であるとともに、社会に開かれた博物館として、史料を次世代に引き継ぐという役割と史料の公開という社会的使命を果たすため、様々な活動を行っています。

皇室、皇族、華族、大名、公家、村の名主家、および学習院の教育者などから受贈・受託された14万件を越す豊富な収蔵史料を有し、このうち整理や調査研究を終えた史料群については、『学習院大学史料館収蔵史料目録』『学習院大学史料館紀要』によって、その成果を公表しています。

1985年に東京都から博物館相当施設に指定されて以来、年に2~3回の展覧会を開催。さらに年3回公開講座を開催するなど、学生や研究者だけでなく広く一般の人々にも開かれた場として機能しています。

学芸員課程事務室と博物館実習室を館内に設置し、学芸員資格に関する業務も行っています。また、これまで多くの博物館実習生を受け入れてきました。

● 史料館ホームページ

<https://www.museum.univ.gakushuin.ac.jp/>



▶ 東洋文化研究所

東洋文化研究所は、1952年に設立された東アジア地域を研究対象とする学際的・国際的な共同研究施設です。歴史・教育・法・思想・政治・経済・言語学などに関するプロジェクト研究では学内の専任教員を中心に、学外(海外も含む)の優れた研究者も参加し、共同研究をおこなっています。その研究成果は雑誌『東洋文化研究』などの刊行物で発表され、大学院生の論文も掲載されています。また、東洋文化講座やその他講演会には多くの大学院生が参加しています。所蔵資料としては主に朝鮮半島・中国に関

する図書が多く、なかでも友邦文庫は朝鮮総督府関係の貴重な資料を多く含み、国際的にも注目されています。また、開架式のレファレンスルームは、多くの大学院生に利用され、東アジア研究のサロンとして機能しています。

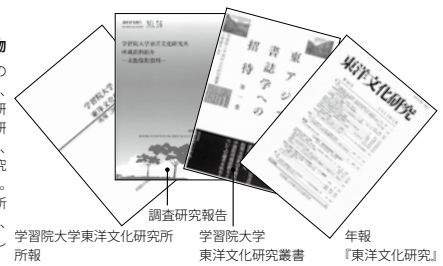
● 東洋文化研究所ホームページ

<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/>



東洋文化研究所刊行物

アジアの諸国・諸地域の政治、経済、歴史、社会、文化、思想等に関する研究成果を、『東洋文化研究』や『調査研究報告』、学習院大学東洋文化研究叢書で発表しています。また、『東洋文化研究所報』を年1回刊行し、プロジェクトの紹介をしています。



▶ 外国語教育研究センター

外国語教育研究センターは外国語に関する教育・研究活動を総合的に行うことを目的とする組織として1997年度に発足し、外国語関連の授業のほか、言語や文化の分野における調査・研究、全学の言語教育活動に対する協力、言語教育に関する全学的調整等を行っています。大学院生も一部の授業は履修可能です。

開講科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語、朝鮮語、アラビア語、そして外国人留学生向けの日本語です。

また、中央教育研究棟6階の外国語自習室はDVDや多読用図書などの自習用教材が充実しており、多くの学生に利用されています。大学院生も利用できます。

● 外国語教育研究センターホームページ

<https://fltrc.lang.gakushuin.ac.jp/>



▶ 国際センター

国際センターは、所長の下、専任教員とPD共同研究員が所属し、研究や教育に携わっています。

国外の研究集会で研究発表を行う大学院生に対して「大学院学生の国外における研究発表援助」制度を設け、渡航費用の援助を行う一方（詳細は「奨学金」P51を参照してください）、日本に短期間滞り、本学の教員のもと研究を行う海外の大学院生に対して、「海外大学院学生国内受入研究援助」制度を設け、渡航費用および滞在費の援助を行っています。

また、大学院に所属する留学生に対し、日本人大学（院）生がチューターとしてサポートする制度があります（チューター制度の利用を希望する留学生は指導教授を通して依頼する必要があります）。

近年では、地域日本語教育実践プログラムにおける指導者として大学院生も参加しています。

このように、当センターでは、大学院レベルの国際研究・調査の支援を積極的に行っています。

●国際センターホームページ

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/global/>



▶ 計算機センター



計算機センターは、情報分野の研究・教育を行うための大学附置研究施設として1974年に発足しました。

全学の情報教育を担う中核的な組織として、情報科学・技術の基礎からプログラミング、データサイエンス、AI技術の活用まで、幅広い教育プログラムを提供しています。

基礎的な情報リテラシーから先端的な内容まで体系的に学べるカリキュラムを整備し、全学の学生の学びを支えています。

●計算機センターホームページ

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/gucc/>

▶ 国際学・環境学研究所



国際フォーラムや国内外の研修プログラムを通じて、国際学・環境学分野の研究・教育活動を実施し、英文ジャーナルを通じて世界に発信します。

国際学分野では、国際文化交流・国際問題・比較文化・アジア太平洋研究を柱に、海外における日本研究の支援も視野に入れ、学術研究・調査と成果発表、資料収集・公開、論文募集のほか、研究会やシンポジウムの開催などを行っています。

一方、環境学分野では、人間と環境・食を総合的に捉え、教育活動や体験型プログラム、国際協力、研究発表、教材開発などを通じて、環境意識と食文化理解の深化を図っています。

なお、環境学研究所では関連図書の閲覧・貸出も行っておりますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

●国際学・環境学研究所ホームページ

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/fis/academics/facility/>

▶ 図書館

学習院大学は、全学部を対象とした大学図書館のほか、専門分野に特化した資料を提供する学部図書館・研究施設を設置しており、目白・戸山両キャンパス合わせて20か所の図書施設があります。これらの図書施設全体で約227万冊もの蔵書を備え、蔵書検索システム「GLIM/OPAC」等により、これらの膨大な蔵書への容易なアクセスが可能となっています。

また、デジタル情報の利用環境整備を進めており、所属キャンパス外からもデータベースや電子ジャーナルにアクセスするためのリモートアクセスを提供していると共に、電子資料を横断的に検索し、目的とする情報を入手するための環境として「まとめて検索（Discovery Service）」を提供しています。

【契約データベース】

[Japan Knowledge Lib][朝日新聞クロスサーチ(朝日新聞)][ヨミダス(読売新聞)][日経テレコン 21][eol 有価証券報告書全文検索][LEX/DB(法判例)][Westlaw Japan(法判例)][JSTOR][EBSCOhost]ほか、多数あります。契約中のデータベースを一覧できる「データベースリスト」にて確認が可能です。

■大学図書館

東1号館の2階から11階が大学図書館となっており、2023年4月に開館しました。和漢古書から現代の出版物まで多岐にわたる約87万冊を所蔵し、低層階を討議交流のエリア、高層階を自学自習の静粛エリアに定めることで、学習スタイルごとの棲み分けを実現しています。4階にはグループ学習室、7階には個人学習室を設け、学習室予約サイトから予約が可能です。

学外との総合窓口になっているレファレンスカウンターでは、国内外の図書館から論文のコピーや本を取り寄せるサービスを行っています。これらのサービスは、GLIM/OPACの個人機能「My GLIM」を利用すれば、自宅からも申し込み可能です。

また相互利用制度により、成蹊大学・成城大学・武蔵大学・甲南大学・青山学院大学・國學院大学・上智大学・専修大学・東洋大学・法政大学・明治大学・明治学院大学・立教大学・日本女子大学・聖心女子大学(閲覧のみ)の各図書館で、研究に必要な資料の貸出を受けることができます。

●大学図書館ホームページ

<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/>

■法経図書センター(法学部・経済学部図書センター)

東2号館の3階から7階に位置する法経図書センターは、施設・内容ともに学部図書館としては比類ない規模を誇ります。社会科学系の資料を中心に約49万冊の資料を所蔵し、主として研究者・院生・学部生を対象にサービスを提供しています。館内にはパソコンが約50台あり、情報検索や課題の作成に活用されています。また話し合いながらの学習やゼミ・授業に利用できるセミナールームやグループ学習室も設置しています。

他に、法学部・経済学部・国際社会科学部・法科大学院の教員が授業の参考資料を選んだ指定図書コーナーが充実しています。2026年2月現在、102人の教員が指定した約5,300冊の資料で構成されており、非常に利用の多いコーナーです。GLIM/OPACの「指定図書検索」からは各学部・学科、教員ごとの指定図書リストをご覧いただけます。

●法経図書センターホームページ

<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/le-lib/>

■理学部図書室

理学部図書室は、南4号館1階の物理・化学・生命科学に関する専門資料を所蔵する理学部図書室(物理・化学・生命)と、3階の数学に関する専門資料を所蔵する理学部図書室(数学)に分かれています。2つの図書室を合わせ、約7万冊の蔵書に加え、自然科学系の電子ジャーナルを多く提供しています。

●理学部図書室ホームページ

<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/sci/>

■国際文化交流学部図書センター

戸山キャンパスの8号館に位置する国際文化交流学部図書センターは、国際文化交流学部・研究科の学部図書館として約23万冊の資料を備えています。自然光にあふれた開放感のある2階建ての建物で、机には全席コンセントを設置済みです。予約制の半個室型の席(個人キャレル)や食事が可能なフレッシュルーム、リラックスできるソファ席もあります。息抜きしながら長時間研究に集中できる環境を整えています。

サービス面では、ニーズに即したガイダンスを始めとした利用者支援に力を入れています。

●国際文化交流学部図書センターホームページ

https://www.univ.gakushuin.ac.jp/fis/campus_life/library/



大学院の概要

学習院大学大学院は、「法学研究科」「政治学研究科」「経済学研究科」「経営学研究科」「人文科学研究科」「自然科学研究科」「国際社会科学研究所」「国際文化交流研究所」の8つの研究科から構成されます。研究者を目指す者、教育者を目指す者、国際社会で活躍することを旨とする者など、一人ひとりが自らの目標へ向かって、より深く学問を探究できる環境がととのっています。

▶ 大学院の研究科・課程・入学定員

修士課程	定員	博士前期課程	定員	博士後期課程	定員
● 国際社会科学研究所		● 法学研究科		● 法学研究科	
国際社会科学専攻	6名	法学専攻	10名	法律学専攻	3名
● 国際文化交流研究所		● 政治学研究科		● 政治学研究科	
国際文化交流専攻	10名	政治学専攻	10名	政治学専攻	3名
		● 経済学研究科		● 経済学研究科	
		経済学専攻	10名	経済学専攻	3名
		● 経営学研究科		● 経営学研究科	
		経営学専攻	10名	経営学専攻	3名
		● 人文科学研究科		● 人文科学研究科	
		哲学専攻	10名	哲学専攻	3名
		美術史学専攻	10名	美術史学専攻	3名
		史学専攻	15名	史学専攻	3名
		日本語日本文学専攻	20名	日本語日本文学専攻	3名
		英語英米文学専攻	10名	英語英米文学専攻	3名
		ドイツ語ドイツ文学専攻	5名	ドイツ語ドイツ文学専攻	2名
		フランス文学専攻	5名	フランス文学専攻	2名
		心理学専攻	6名	心理学専攻	2名
		臨床心理学専攻	12名	臨床心理学専攻	3名
		教育学専攻	20名	教育学専攻	5名
		アーカイブズ学専攻	15名	アーカイブズ学専攻	3名
		身体表象文化学専攻	10名	身体表象文化学専攻	3名
● 自然科学研究科		● 自然科学研究科		● 自然科学研究科	
物理学専攻	15名	物理学専攻	3名	物理学専攻	3名
化学専攻	15名	化学専攻	3名	化学専攻	3名
数学専攻	6名	数学専攻	3名	数学専攻	3名
生命科学専攻	15名	生命科学専攻	3名	生命科学専攻	3名

▶ 学位授与数

学位授与数は、以下の二次元バーコードよりご確認ください。



▶ 専攻別在籍者数

2026年5月1日現在

修士課程		(人)			
研究科	専攻	1年次	2年次	3年次	合計
国際社会科学研究所	国際社会科学専攻	5	0	-	5
国際文化交流研究所	国際文化交流専攻	8	4	-	12
修士課程	合計	13	4	-	17

博士前期課程					
研究科	専攻	1年次	2年次	3年次	合計
法学研究科	法律学専攻	0	0	-	0
政治学研究科	政治学専攻	5	7	-	12
経済学研究科	経済学専攻	3	3	-	6
経営学研究科	経営学専攻	4	0	-	4
人文科学研究科	哲学専攻	4	5	-	9
	美術史学専攻	3	4	-	7
	史学専攻	12	9	-	21
	日本語日本文学専攻	9	10	-	19
	英語英米文学専攻	3	2	-	5
	ドイツ語ドイツ文学専攻	3	1	-	4
	フランス文学専攻	5	1	-	6
	心理学専攻	2	3	-	5
	臨床心理学専攻	13	9	-	22
	教育学専攻	3	6	-	9
	アーカイブズ学専攻	3	9	-	12
	身体表象文化学専攻	6	10	-	16
	計	66	69	-	135
自然科学研究科	物理学専攻	6	9	-	15
	化学専攻	38	29	-	67
	数学専攻	4	6	-	10
	生命科学専攻	16	11	-	27
	計	64	55	-	119
博士前期課程	合計	142	134	-	276

博士後期課程					
研究科	専攻	1年次	2年次	3年次	合計
法学研究科	法律学専攻	1	0	0	1
政治学研究科	政治学専攻	0	0	3	3
経済学研究科	経済学専攻	1	0	2	3
経営学研究科	経営学専攻	1	2	5	8
人文科学研究科	哲学専攻	1	0	5	6
	美術史学専攻	1	1	7	9
	史学専攻	3	3	10	16
	日本語日本文学専攻	3	1	8	12
	英語英米文学専攻	3	1	5	9
	ドイツ語ドイツ文学専攻	0	0	3	3
	フランス文学専攻	2	0	2	4
	心理学専攻	0	0	1	1
	臨床心理学専攻	2	2	19	23
	教育学専攻	5	1	10	16
	アーカイブズ学専攻	2	0	6	8
	身体表象文化学専攻	1	0	8	9
	計	23	9	84	116
自然科学研究科	物理学専攻	0	1	0	1
	化学専攻	0	1	1	2
	数学専攻	0	0	1	1
	生命科学専攻	2	0	1	3
	計	2	2	3	7
博士後期課程	合計	28	13	97	138

奨学金

▶ 学内奨学金

学習院大学大学院博士後期課程給付奨学金

大学院博士後期課程に在学する大学院生を対象として、納付金負担を軽減し若手研究者の研究活動を奨励することを目的に、授業料の3分の1相当額を奨学金として給付します。

[奨学生の資格] 博士後期課程に在籍する学生のうち、次の①または②のいずれかに該当する者

- ① 本人および配偶者の収入金額合計が所定の収入金額以下であること。
- ② 学業成績が優秀かつ研究心に富む者。

学習院大学家計急変奨学金

修学の意欲があるにもかかわらず、家計の急変により学業の継続が困難な学生を支援することを目的した給付奨学金です。

[奨学生の資格] 次の3つの基準を満たす者。

- ① 家計基準/世帯収入(生計維持者である父母の収入合計)が家計急変事由によって著しく減少し(半減以上)、別に定める収入基準額以下であること。
- ② 成績基準/標準修得単位数以上の単位を修得し、最短修業年限(休学期間を除く)で卒業が見込まれる者。
- ③ 家計急変事由/別に定める家計急変事由が申請日から6ヵ月以内に発生していること。

学習院大学大学院スカラーズ・ファンド

企業・法人よりご寄付いただいた資金により、博士前期課程または修士課程に在籍する1年生のうち、経済的支援が必要で、学業成績および人物ともに優秀な学生を対象に、有意義な学生生活を送るための修学支援を目的とした給付奨学金です。

[奨学生の資格] 次の2つの基準を満たす者。

- ① 学習院大学の学部を卒業していること。
- ② 家計基準/生計維持者の収入金額合計が所定の収入金額以下であること。

学習院大学学業優秀者給付奨学金

本学学生の学業成績優秀者を表彰することを目的とし、副賞として奨学金を給付するために設けられました。各研究科委員長から、それぞれ学長に推薦され決定します。

[奨学生の資格] 特色ある研究活動を行う者

安倍能成記念教育基金大学院奨学金

故安倍能成元院長の功績を永く記念し、その精神を後世に伝え、学術および教育の興隆に寄与する目的で設けられた優秀学生に対する奨学金です。

研究者の育成を目的として給付される奨学金です。

[奨学生の資格] 大学院に在学する学生で、学業成績・人物ともに優秀であり、また将来、研究者たり得る資質のある者

関育英資金奨学金

故関義長氏(元学習院理事)の遺志により設けられ、電気ならびに原子力関係の研究者(大学院生)に対して給付されます。

[奨学生の資格] 自然科学研究科学生

学習院末松奨学基金奨学金

故末松保和学習院大学名誉教授のご遺族より寄付された基金を運用し、その基金から生じる果実等から給付するものです。

[奨学生の資格] 人文科学研究科史学専攻学生

学習院大学教育ローン金利助成奨学金

金融機関から、学費等納付を目的として教育ローンを借用した場合、在学中に支払った金利の一部(上限5万円)を申請により給付する制度です。

人文科学研究科特別研究費

人文科学研究科に在籍する大学院生の研究を支援するため、博士前期課程においては5万円、博士後期課程においては20万円を申請者全員に研究費として給付しています。

▶ 学外奨学金

日本学生支援機構奨学金(貸与)

日本学生支援機構は、独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて設立された機関で、学資の貸与その他学生等の修学の援助を行っています。

2025年度実績

(単位:円)

奨学金の種類	博士前期	博士後期
第一種	50,000、88,000	80,000、122,000
第二種	50,000、80,000、100,000、130,000、150,000の5種類から選択(前後期共通)	

● 奨学金等一覧(採用数は2025年度実績) ※学習院女子大学の実績は含まず

制度名	金額(円)	採用数(名)	募集時期	貸・給別	備考	
学習院大学大学院博士後期課程給付奨学金	授業料の $\frac{1}{3}$ 相当額	56	5月下旬	給付	給付期間1年間(毎年申請可)	
学習院大学家計急変奨学金	年額150,000	2	6月上旬 11月中旬	給付	給付期間1年間 (在学中1回限りの給付)	
学習院大学大学院高砂熟学工業スカラーズ・ファンド	年額500,000	1	5月下旬	給付	給付期間2年間 (継続審査有)	
学習院大学大学院日本電設工業スカラーズ・ファンド	年額500,000	1	5月下旬	給付	給付期間2年間 (継続審査有)	
学習院大学大学院三井住友銀行スカラーズ・ファンド	年額500,000	1	5月下旬	給付	給付期間2年間 (継続審査有)	
学習院大学大学院スカラーズ・ファンド(匿名(一社))	年額500,000	1	5月下旬	給付	給付期間2年間 (継続審査有)	
学習院大学教育ローン金利助成奨学金	在学中に支払った金利の一部 (上限5万円)	1	1月中旬	給付	給付期間1年間(毎年申請可)	
学習院大学学業優秀者給付奨学金	大学院生 年額300,000	29	(推薦制)	給付	給付期間1年間 各専攻からの推薦制	
安倍能成記念教育基金大学院奨学金	年額450,000	14	(推薦制)	給付	給付期間1年間 推薦制	
学習院末松奨学基金奨学金	年額100,000	1	(推薦制)	給付	給付期間1年間・人文科学研究科史学 専攻からの推薦制	
関育英資金奨学金	月額30,000	1	(推薦制)	給付	給付期間1年間・自然科学研究科から の推薦制	
日本学生 支援機構	大学院 修士・博士前期	第一種(月額)50,000、88,000 第二種(有利子)5種類から選択	23 2	一次:4月 二次:10月 予約採用:11月	貸与	採用決定(予定) 一次6月中旬・二次12月中旬 予約採用決定3月下旬
	大学院 博士後期	第一種(月額)80,000、122,000 第二種(有利子)5種類から選択	4 0			
学習院大学海外留学奨学金	年間400,000以内	5	12月及び 6月	給付		
学習院大学海外短期研修奨学金	100,000以内	1	9月及び1月	給付		
学習院大学語学能力試験受験の助成	12,000以内	2	上半期:~7月 下半期:~1月	給付		
大学院学生の国外における研究発表援助	150,000以内	15	4月上旬~ 1月中旬	給付		
学習院大学外国人留学生奨学金及び奨励金	奨学金 300,000以内 年度毎変動有 奨励金 300,000	43 6	4月上旬	給付	採用1カ年	
学習院大学外国人学生に対する授業料減免	授業料の30%*	31	4月上旬	減免	採用1カ年	
私費留学生用学外奨学金	各奨学金により異なる	若干名あり	随時	給付	推薦または個人応募制	

*大学院博士後期課程3年次で取得単位満了の者で、博士論文執筆または審査のために在籍する外国人学生は、100%減免(2025年度実績:7名)。

教員免許状

●本大学院において取得できる教員免許状の種類および免許教科

研究科・専攻		免許状の種類	中学校教諭 専修免許状	高等学校教諭 専修免許状
政治学研究科	政治学専攻		社会	公民
経済学研究科	経済学専攻		社会	公民
経営学研究科	経営学専攻		社会	公民
人文科学研究科	哲学専攻		社会	公民
	史学専攻		社会	地理歴史
	日本語日本文学専攻		国語	国語
	英語英米文学専攻		外国語（英語）	外国語（英語）
	ドイツ語ドイツ文学専攻		外国語（ドイツ語）	外国語（ドイツ語）
自然科学研究科	物理学専攻		理科	理科
	化学専攻		理科	理科
	数学専攻		数学	数学
	生命科学専攻		理科	理科
人文科学研究科	教育学専攻		小学校教諭専修免許状	

*原則として、中学校・高等学校教諭専修免許状は中学校・高等学校教諭一種免許状を既に取得している者に、小学校教諭専修免許状は小学校教諭一種免許状を既に取得している者に授与される。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

●入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、以下の二次元バーコードよりご確認ください。

法学研究科	政治学研究科	経済学研究科	経営学研究科	人文科学研究科
				
自然科学研究科	国際社会科学研究科	国際文化交流研究科		法務研究科 （法科大学院）
				

INFORMATION インフォメーション

● 大学院募集要項の請求方法

要項・願書は本学Webサイトにてダウンロードすることができます。

※必ず事前に本学Webサイトにて出願期間・募集要項をご確認ください。

募集要項については二次元バーコードを読み込むか、学習院大学Webサイト

(<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/graduate-exam/>) をご確認ください。



● 人文科学研究科説明会のお知らせ

人文科学研究科は、大学院説明会を8月1日(土)と10月24日(土)に対面もしくはオンラインにて実施予定です(10月24日(土)は史学専攻・フランス文学専攻・心理学専攻・臨床心理学専攻を除く)。

また、一部専攻では、下記日程でも説明会を実施いたします。

- ・心理学専攻：6月2日(火) ※対面開催・オンライン同時配信予定
- ・臨床心理学専攻：6月2日(火) ※対面開催・オンライン同時配信予定
- ・史学専攻：6月20日(土) ※対面で開催予定
- ・教育学専攻：7月20日(月) ※オンラインで開催予定
11月30日(月) ※オンラインで開催予定

今後変更の可能性がございますので、人文科学研究科Webサイト、各専攻Webサイトにて必ずご確認ください。

● お問い合わせ

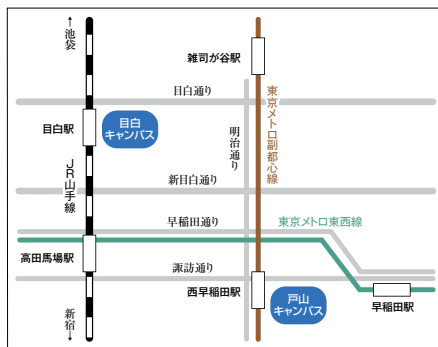
お問い合わせは、学習院大学アドミッションセンター(目白キャンパス西5号館4階)にて承ります。

電話 03-5992-1083・03-5992-9226

URL <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>

開室時間 9:00~11:30、13:00~16:30(月~金) 9:00~12:00(土)

アクセスマップ



目白キャンパス

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

■法学研究科、政治学研究科、経済学研究科、
経営学研究科、人文科学研究科、自然科学研究科、
国際社会科学研究科

JR山手線「目白」駅より徒歩30秒

東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅3番出口より徒歩7分

都電荒川線「学習院下」「鬼子母神前」駅も利用可

戸山キャンパス

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1

■国際文化交流研究科

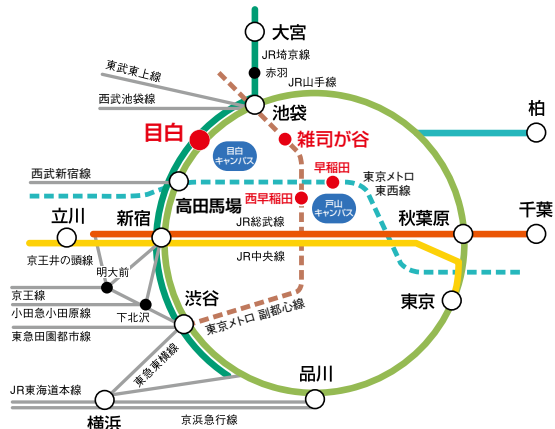
東京メトロ副都心線「西早稲田」駅

3番エレベーター口より徒歩1分

東京メトロ東西線「早稲田」駅2番出口より徒歩9分

JR山手線・西武新宿線「高田馬場」駅戸山口より、

徒歩13分





学習院大学大学院

お問い合わせ先：学長室広報センター

TEL.03-5992-1008

〒171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp>